

資料編

1 計画策定体制（豊見城市次世代育成支援行動計画策定事業実施要項より）

(1) 計画策定の考え方

後期計画は、計画策定当初から住民参加を基本にニーズ調査及びワークショップの実施により民意を反映し、今後5カ年（平成22年度～26年度）で実施可能な事業を盛り込むものとし、また、関係機関（課）との連携を図ることを前提に、それぞれの課で実施している事業については、主管課が責任をもって展開するものであり改めて本計画に盛り込むべきか等についても検討しながら、策定業務を進めるものとします。

(2) 計画策定体制

後期計画策定にあたっては、庁内関係部課長による策定委員会を設置します。

また、策定委員会において審議する計画書の内容については、ニーズ調査の分析・評価に併せて、市民の意見を反映させるため関係課及び市民参加によるワークショップ等において集約し、関係課との連携のもと諸施策案の検討を行います。

① 策定委員会

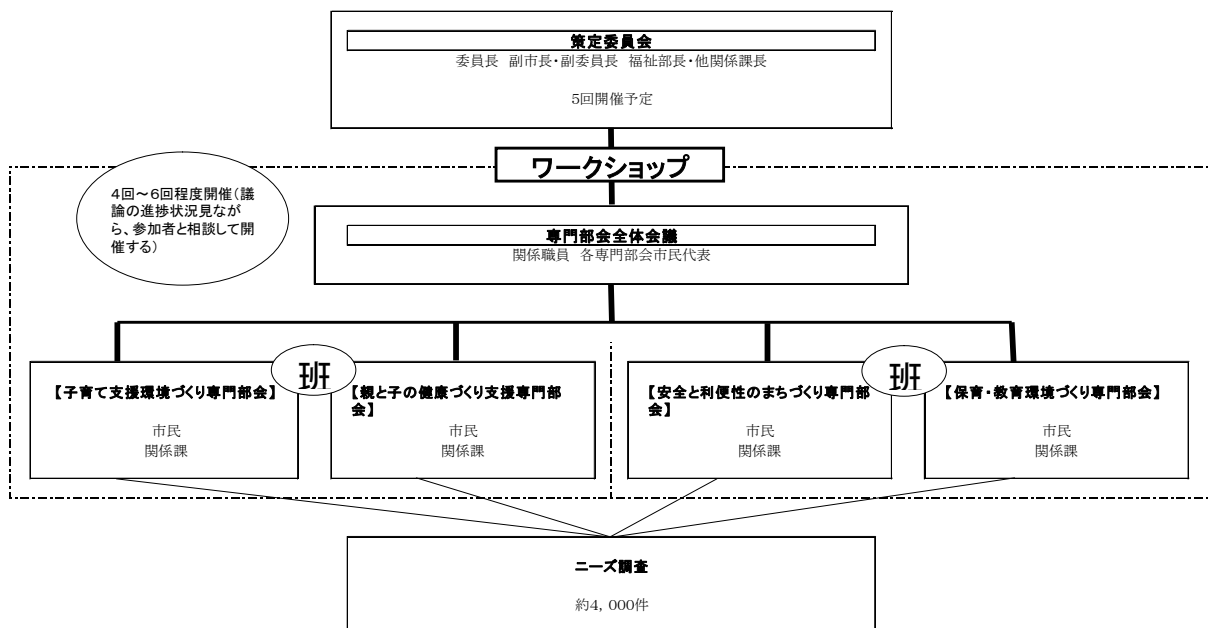
総合計画及び福祉計画等他の計画との整合性を図る観点から、総合的視野に立ち、今後5年間の施策のあり方について調整を図り、方向性を決める委員会として位置づけます。

② 専門部会

ニーズ調査の結果、地域住民の意向を推測することに併せて、4つの分野に分かれワークショップを開催し、市民の声を広く意見を反映させ、策定委員会に提案する計画書の素案を作成する役割を担います。

素案作成については、担当部署（者）としての立場から十分に検討し必要に応じて事務局との調整を図りながら作成する部会として位置づけます。

■ 後期計画策定体制図



(3) ニーズ調査

子育て家庭の生活の実態やサービスニーズは子どもの年齢により異なるため、地域におけるサービスニーズを把握することを目的として就学前児童、小学生、中学生を対象としたニーズ調査を実施しました。

2 後期計画策定のポイント

後期行動計画策定の手引き(平成21年3月)抜粋

(1) 計画策定の基本視点

①子どもの視点

子どもの幸せを第一に考え、子どもの利益が最大限に尊重されるよう配慮することが必要であり、特に子育ては男女が協力して行うべきものとの視点に立った取り組みが必要である。

②次代の親づくりという視点

豊かな人間性を形成し、自立した家庭を持つことができるよう、長期的な視点に立った子どもの健全育成のための取り組みを進める必要がある。

③サービス利用者の視点

多様な個別のニーズに柔軟に対応できるように、利用者の視点に立った柔軟かつ総合的な取り組みが必要である。

④社会全体による支援の視点

父母その他の保護者が子育てについての第一義的責任を有することを基本的認識のもと、国及び地方公共団体、企業、地域社会で協力して取り組むべき課題であることから、さまざまな担い手の協働の下に施策を進めていく必要がある。

⑤仕事と生活の調和の視点

働き方の見直しを進め、仕事と生活の調和を実現することは、国民の結婚や子育てに関する希望を実現するための取り組みの一つとして少子化対策の視点からも重要であり、ワーク・ライフ・バランス憲章においても、社会全体の運動として進めていくこととされている。こうした取り組みについては、地域においても、国及び地方自治体や企業を始めとする関係者が連携して進めることが重要であり、自らの創意工夫の下に、地域の実情に応じた展開が必要である。

⑥すべての子どもと家庭への支援

仕事と子育ての両立支援のみならず、子育ての孤立化等の問題を踏まえ広く、すべての子どもと家庭への支援等を行う観点から推進することが必要である。

⑦地域における社会資源の効果的な活用の視点

地域においては、子育てに関する活動を行うNPO、子育てサークル、母親クラブ、こども会、自治会を始めとする地域活動団体等が活動するとともに、民間事業者、子育て支援を通じた地域貢献を希望する高齢者も多く、加えて森林等の豊かな自然環境や地域に受け継がれる伝統文化等もあることから、こうした様々な地域の社会資源を十分かつ効果的に活用することが必要である。

また児童福祉法第48条の2及び第48条の3の規定を踏まえた児童養護施設等の活用や児童館、公民館、学校施設等を始めとする各種公共施設の活用を図ることが必要である。

⑧サービスの質の視点

利用者が安心してサービスを利用できる環境を整備するためには、サービス供給量を適切に確保するとともに、サービスの質を確保することが重要である。

このため、次世代育成支援対策においては、サービスの質を評価し、向上させていくといった視点から、人材の資質の向上を図るとともに、情報公開やサービス評価等の取り組みを進めることが必要である。

⑨地域特性の視点

都市部と農山漁村の相違を始め、人口構造、さらには社会資源の状況等地域の特性は様々であり、利用者のニーズ及び必要とされる支援施策も異なることから、次世代育成支援対策においては、各地方公共団体が各々の特性を踏まえて主体的な取り組みを進めていくことが必要である。

(2) 国が示す近年の取り組み

平成19年2月「子どもと家庭を応援する日本」重点戦略検討会が設置され、重点戦略策定の方向性として「働き方の見直しによる仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現」、「包括的な次世代育成支援の制度的枠組みの構築」が示されました。同年7月、「ワーク・ライフ・バランス推進官民トップ会議」が設置され、12月には「子どもと家庭を応援する日本」重点戦略が取りまとめられました。

重点戦略では、結婚や出産・子育てに関する国民の希望を実現するためには何が必要であるかに焦点をあてた検討が進められ、就労と出産・子育ての二者択一の構造を解消していくためには「働き方の見直しによる仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現」とその社会的基盤となる「包括的な次世代育成支援の枠組みの構築」を「車の両輪」として進めていく必要があるとされています。

このうち、「働き方の見直しによる仕事と生活の調和の実現」については、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」と「仕事と生活の調和推進のための行動指針」が策定されました。

①仕事と家庭生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

意義・緊要

【働き方の二極化等】

- 競争の激化、経済低迷や産業構造の変化→正社員以外が大幅に増加、正社員の労働時間の高止まり
- かつては専業主婦。現在は過半数が共働き世帯
→働き方子育て支援などの社会基盤は従来のまま 男女の固定的な役割分担意識が残存

【仕事と生活の間で問題を抱える人の増加】

- 正社員以外の働き方の増加→経済的に自立できない層
- 長時間労働→「心身の疲労」「家族の団らんを持ってない層」
- 働き方の選択肢の制約→仕事と子育ての両立が困難

【少子化対策や労働力確保が社会全体の課題に】

- 結婚や子育てに関する人々の希望を実現しにくいものにし、急速な少子化の要因に
- 働き方の選択肢が限定。女性、高齢者等の多様な人材を活かせない
- 個人の生き方や人生の段階に応じて多様な働き方の選択を可能にする必要がある
- 働き方の見直し、生産性の向上や競争力の強化に＝「明日への投資」

仕事と生活の調和が実現した社会の姿

国民一人一人がやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会

①就労による経済的な自立
が可能となる社会

②健康で豊かな生活のため
の時間が確保できる社会

③多様な働きか他・生き方
が選択できる社会

各主体の取り組みを推進するための社会全体の目標を設定

<代表例>

- 就業率
- 週労働時間 60 時間以上の雇用者の割合
- 第 1 子出産後の継続就業率
- フリーター数
- 年次有給休暇取得率
- 育児休業取得率

関係者が果たすべき役割

企業と働く者

協調して生産性の向上に努めつつ、職場の意識や職場風土の改革と合わせ働き方の改革に自主的に取り組む

国・地方公共団体

国民運動を通じた気運の醸成、制度的枠組みの構築や環境整備などの促進・支援策への積極的な取り組み、地域の実情に応じた展開

②包括的な次世代育成支援の枠組みの構築

課題等

- 施策の総合性、体系性の欠如 ○家族政策の施策の規模が小さい(財源確保の困難性)
- 保育サービスの在り方→保護者のニーズに対応したサービス基盤の整備
- 「出産・子育て」と「就労」との間で多様な選択肢の可能性→切れ目ない支援
- 保育サービスの市町村格差が大きい
- 親にとって保障される水準や費用負担が不明確で権利性が弱い
- 児童手当と制度措置が別に講じられている
- 保育以外の子育て支援サービスの制度的な位置づけが弱い
- 安心して過ごせる場所や居場所などが少ない
- 社会的な養護体制が質、量ともに不足している



- 包括的・体系的→多様な考え方に基づく次世代育成支援施策の方策化・体系化
- 普遍性 →必要なサービスを選択・利用できる
- 連続性 →切れ目のない支援体制の構築

仕事と生活の調和を推進し、国民の希望する結婚、出産・子育ての実現を支える給付・サービスの考え方

①親の就労と子どもの育成支援の両立を支える支援

- 就業希望者を育児休業と保育(あるいはその組合せ)で切れ目なくカバーできる体制、仕組みの構築
- そのための制度の弾力化(短時間勤務を含めた育児休業取得方法の弾力化、家庭的保育などの保育サービスの提供手段の多様化)
- 保育所から放課後児童クラブへの切れ目のない移行

②すべての子どもの健やかな育成を支える対個人給付・サービス

- 一時預かりをすべての子ども・子育て家庭に対するサービスとして再構築(一定のサービス水準の普遍化)
- 子育て世帯の支援ニーズに対応した経済的支援の実施

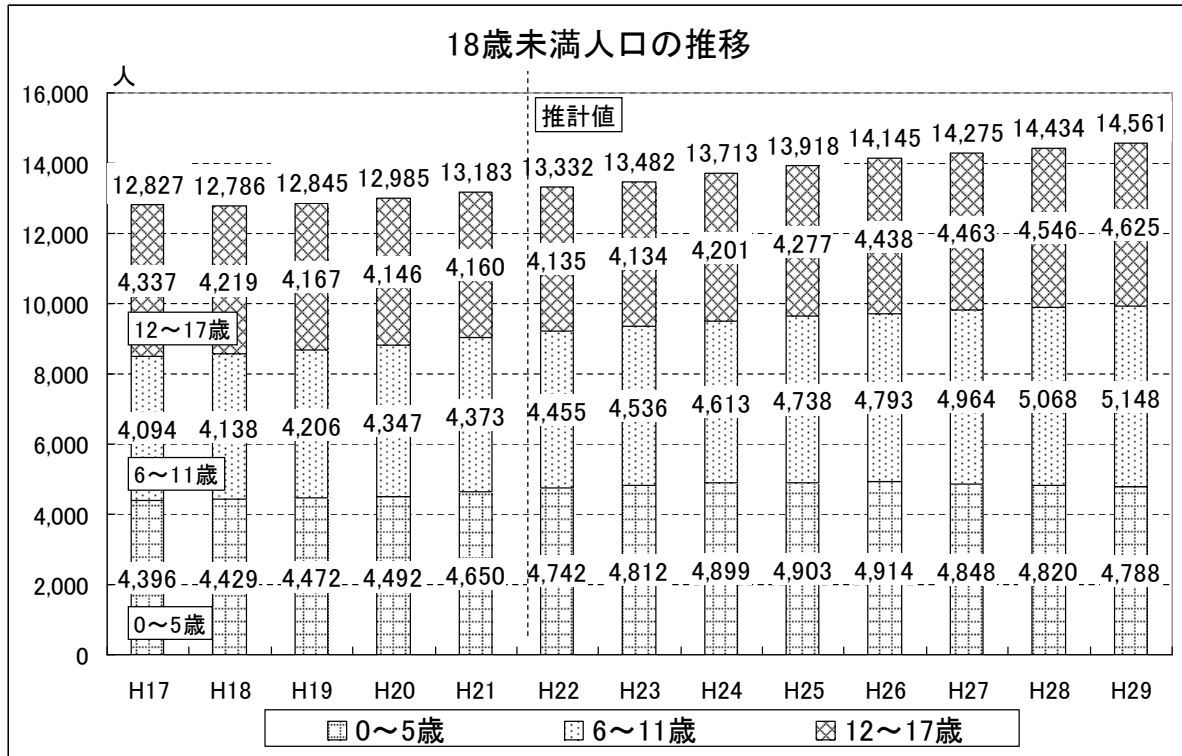
③すべての子どもの健やかな育成基盤となる地域の取組

- 妊婦健診の望ましい受診回数確保のための支援の充実
- 各種地域子育て支援の面的な展開(全戸訪問の実施、地域子育て支援拠点の整備)
- 安全・安心な子どもの放課後の居場所の設置
- 家庭的な保育環境における養護の充実など、適切な療育を受けられる体制の整備

3 人口フレーム（計画人口）

保育事業に関わる目標事業量を設定する際の根拠数値として、本市における児童の将来人口の推計を行いました。推計に関わる基礎数値は、平成20年及び21年の住民基本台帳人口を利用しています。

人口推計を行った結果、18歳未満人口は増加で推移すると予測され、18歳未満人口は13,183人から平成29年には14,561人になると見込まれます。



4 ニーズ調査の概要

(1) ニーズ調査の対象者と実施方法

① 就学前児童ニーズ調査

ア 対象者

保育施設に通う児童、在宅で保育されている児童に区分し、市内に在住する0歳児から5歳児の保護者を対象としています。就学前児童ニーズ調査の対象者数は2,914人です。

イ 実施方法

○ 保育施設に通う児童

市内の市立、認可保育所（園）及び認可外保育施設及び市立幼稚園を通して配布・回収を行いました。

○ 保育施設に通う児童

市内の地域子育て支援センター、各子育てサークル等を通して配布・回収を行いました。

② 小学生ニーズ調査

ア 対象者

市内の小学生のいる保護者を対象としています。小学生ニーズ調査の対象者数は2,420人となっています。

イ 実施方法

市内の小学校を通して配布・回収を行いました。

③ 中学生ニーズ調査

ア 対象者

市内の中学生を対象としています。中学生ニーズ調査の対象者数は445人となっています。

イ 実施方法

市内の中学校を通して配布・回収を行いました。

(2) ニーズ調査票の回収状況

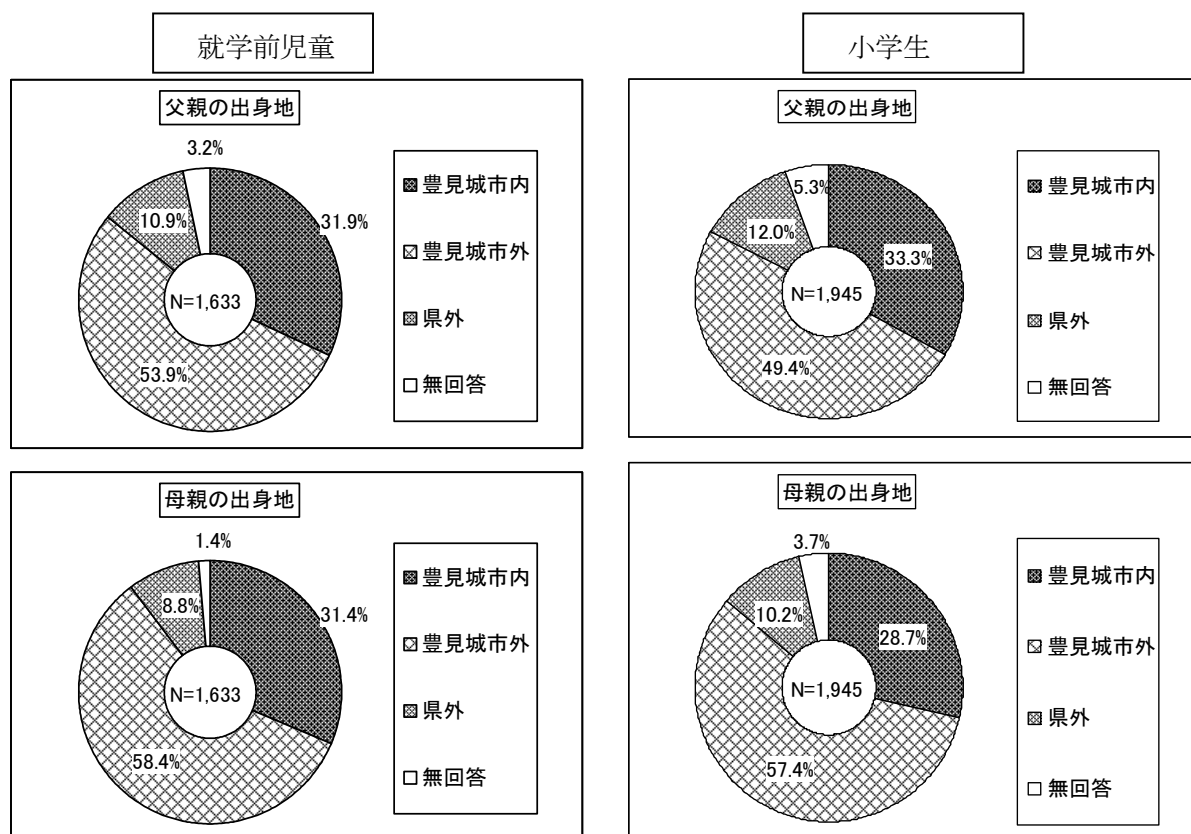
各調査票の回収状況は、以下のようになっています。

	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
就学前児童	2,914	1,637	56.2%	1,633	56.0%
小学校	2,420	1,945	80.4%	1,945	80.4%
中学校	445	349	78.4%	349	78.4%
計	5,779	3,931	68.0%	3,927	68.0%

(3) ニーズ調査結果の概要（就学前児童、小学生共通質問）

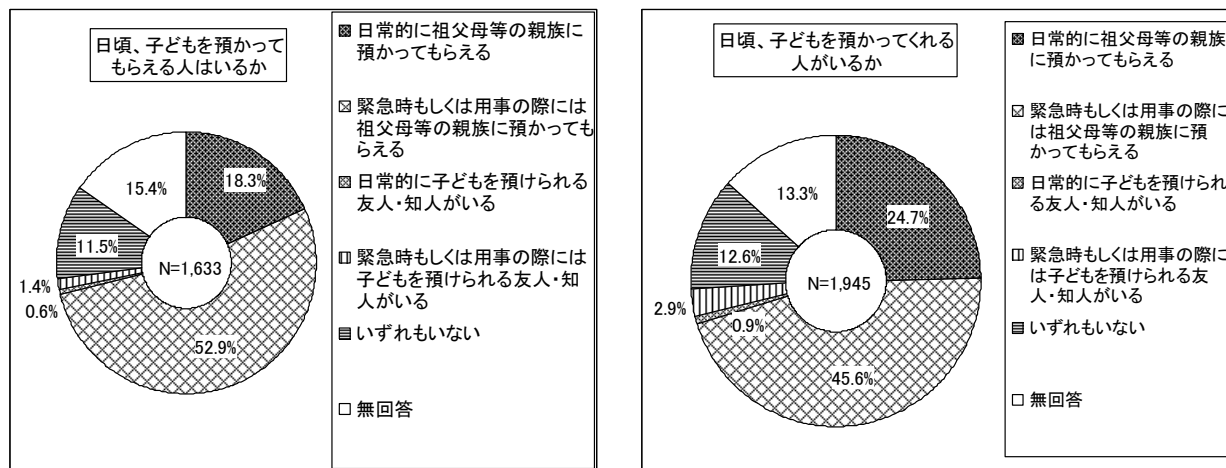
①両親の出身地

就学前児童、小学生の保護者の約6割強は、豊見城市以外の地域の出身者となっており、豊見城市内の出身者の割合は3割程度となっています。



②日頃子どもを預かってもらえる状況

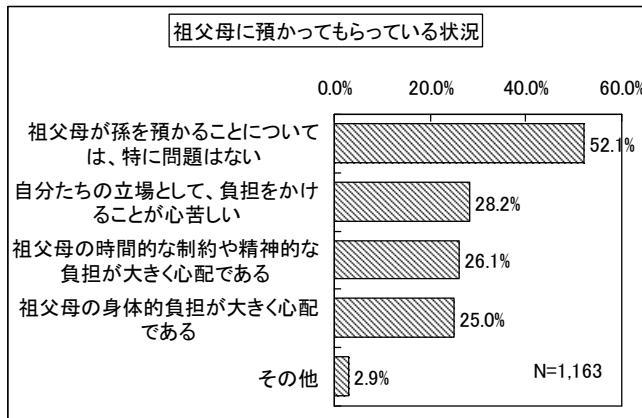
日頃、子どもを預かってもらえる人については、日常的あるいは緊急時に祖父母や友人・知人に子どもを預けることができるとする回答割合は就学前児童、小学生ともに、7割以上となっています。



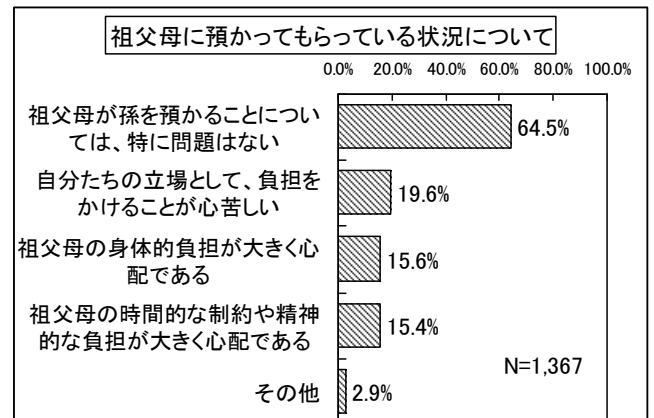
また、祖父母に預かってもらっている状況については、「祖父母が孫を預かることについては、特に問題はない」が就学前児童、小学生でともに第1位となっています。

一方、友人、知人に預かってもらっている状況については、就学前で「自分たちの立場として、負担をかけることが心苦しい」が第1位となるのに対し、小学生では、「友人や知人に預かってもらうことについては、特に問題はない」を第1位としています。

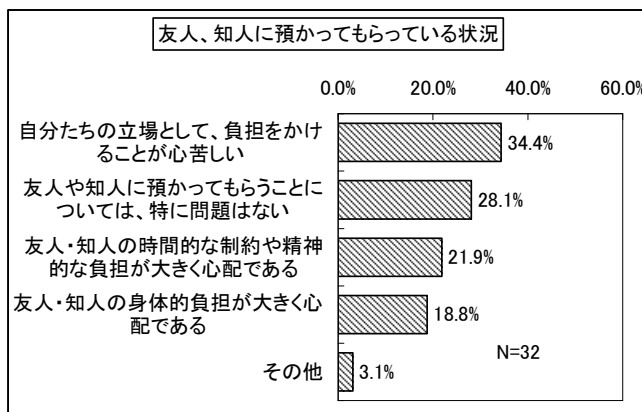
就学前児童



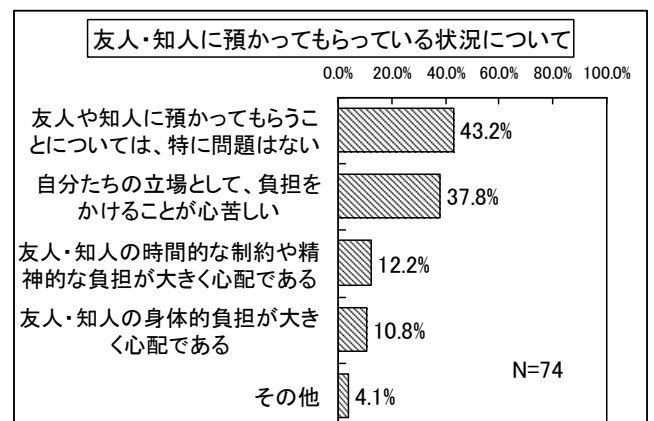
小学生



友人、知人に預かってもらっている状況



友人・知人に預かってもらっている状況について



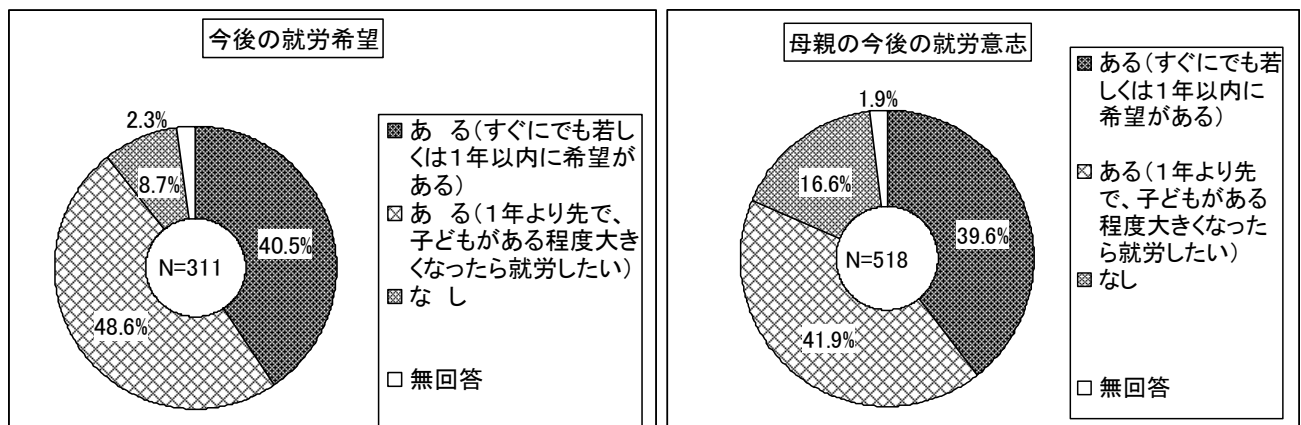
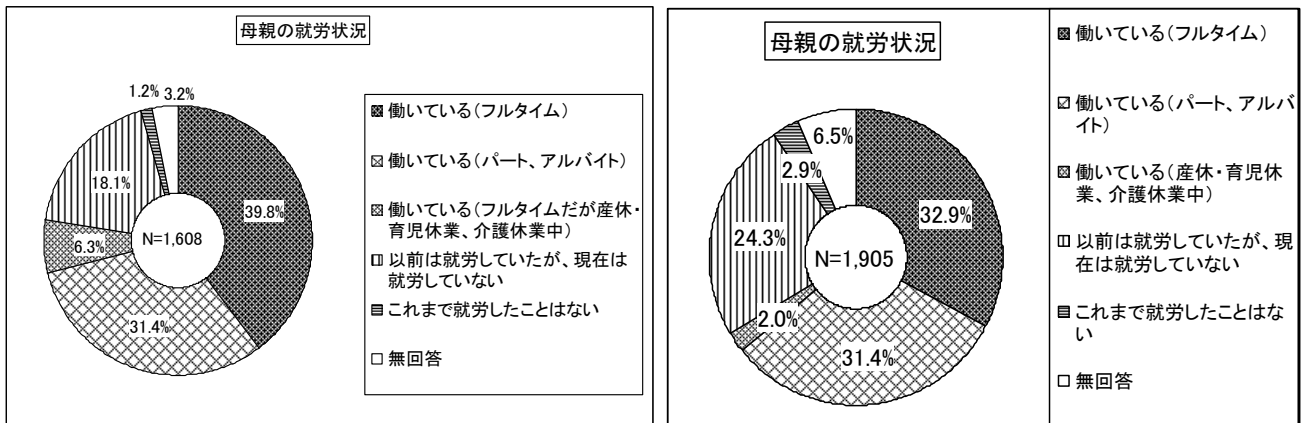
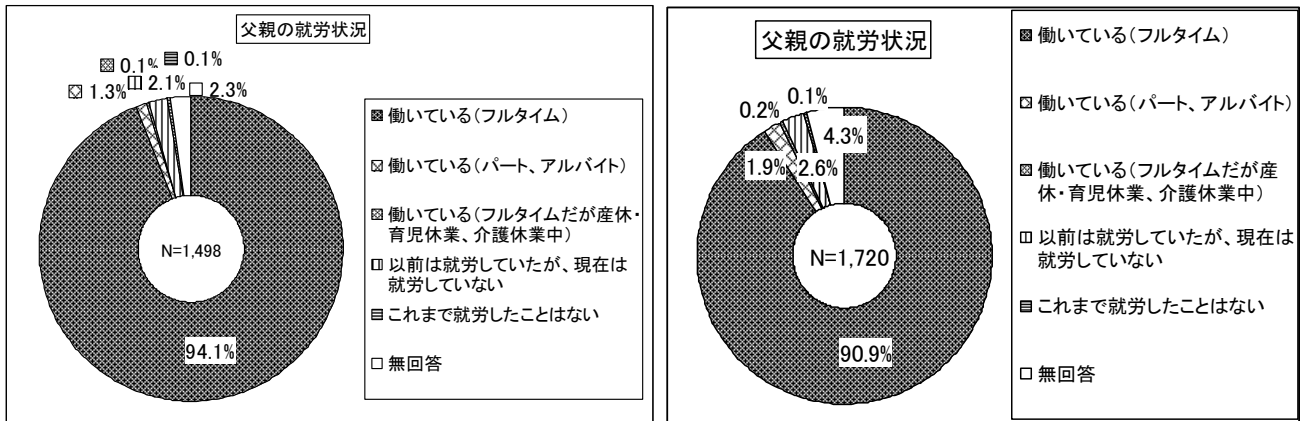
③両親の就業状況

父親の就業割合はフルタイム、パートアルバイトを含めると就学前児童、小学生ともに9割を超えています。母親の就業割合は、就学前で77.5%、小学生で66.3%となっています。

一方、現在働いていない母親の就労希望は、就学前児童で89.1%、小学生で81.5%となり潜在的な保育ニーズが高い状況にあると推測されます。

就学前児童

小学生

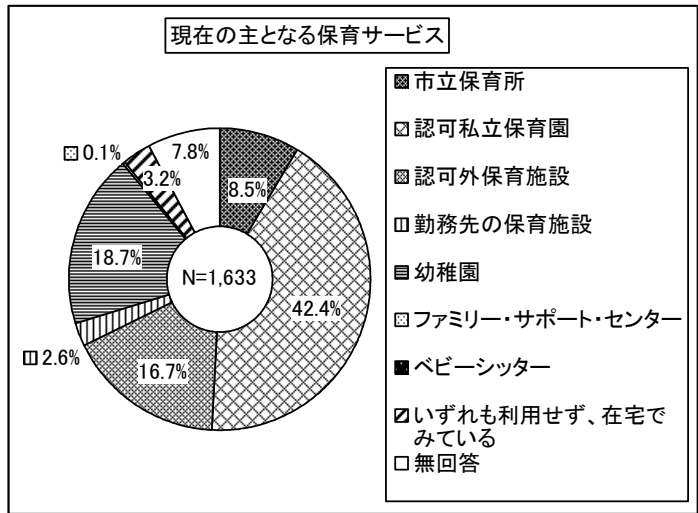


■就学前児童アンケート

④現在の主となる保育サービスの利用状況（就学前児童）

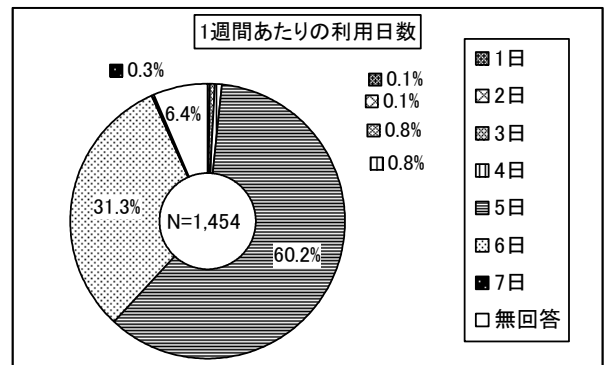
現在の主となる保育サービスは、「認可私立保育園」が42.4%で最も多くなっています。次いで「幼稚園」の18.7%、「認可外保育施設」の16.7%、「市立保育所」の8.5%、「いずれも利用せず、在宅でみている」の3.2%、「勤務先の保育施設」の2.6%、「ファミリー・サポート・センター」の0.1%となっています。

保育施設の種類にかかわらず、保育施設を利用している割合は、89.0%となっています。



⑤保育サービスの利用状況

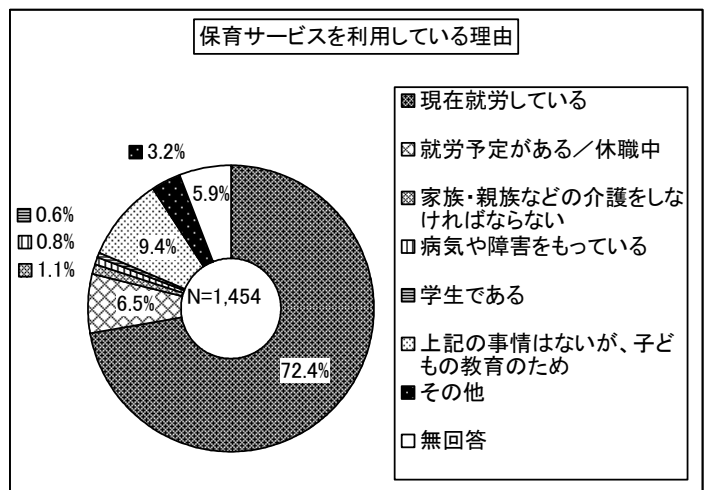
保育サービスの1週間当たりの利用日数は、「5日」が60.2%と半数以上を占め最も多くなっています。次いで「6日」の31.3%等と続いています。



⑥保育サービスを利用している理由

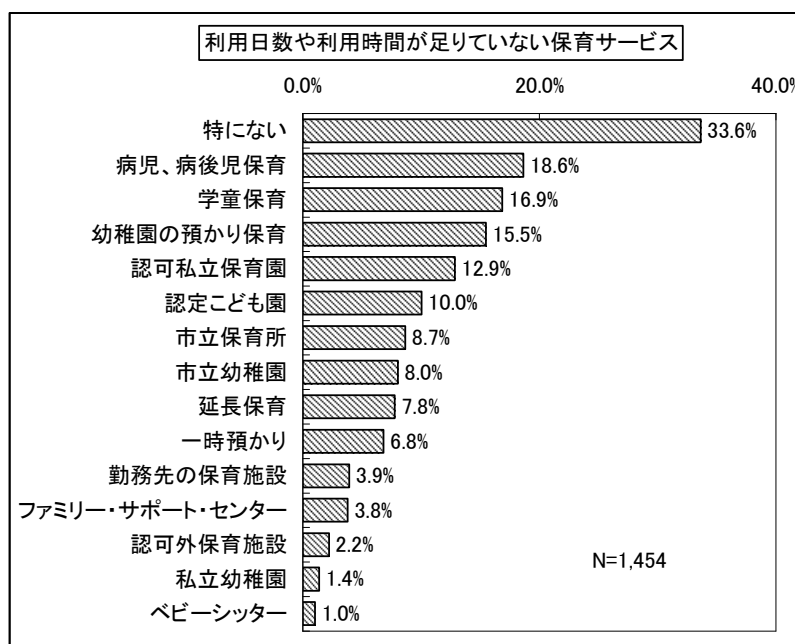
保育サービスを利用している理由は、「現在就労している」が72.4%と半数以上を占め最も多くなっています。

次いで「事情はないが、子どもの教育のため」の9.4%、「就労予定がある／休職中」の6.5%、「その他」の3.2%、「家族・親族などの介護をしなければならない」の1.1%等となっています。



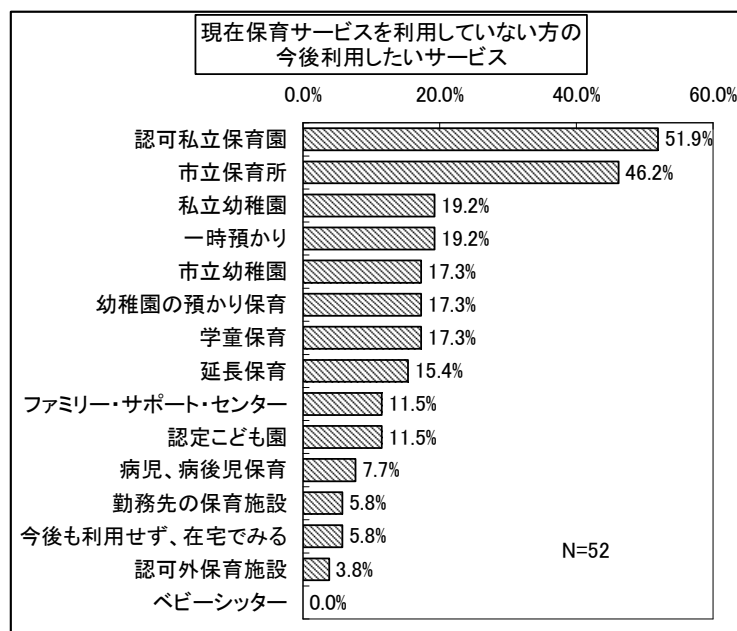
⑦利用日数や利用時間が足りていない保育サービス

利用日数や利用時間が足りていない保育サービスについては「特にない」が33.6%で最も多くなっています。「特にない」を除き、利用時間等が不足しているサービスの第1位は「病児、病後児保育」で18.6%となっています。第2位は「学童保育」の16.9%、第3位は「幼稚園の預かり保育」の15.5%、第4位は「認可私立保育園」の12.9%、第5位は「認定こども園」の10.0%等となっています。



⑧今後利用したい保育サービス（現在保育サービスを利用していない）

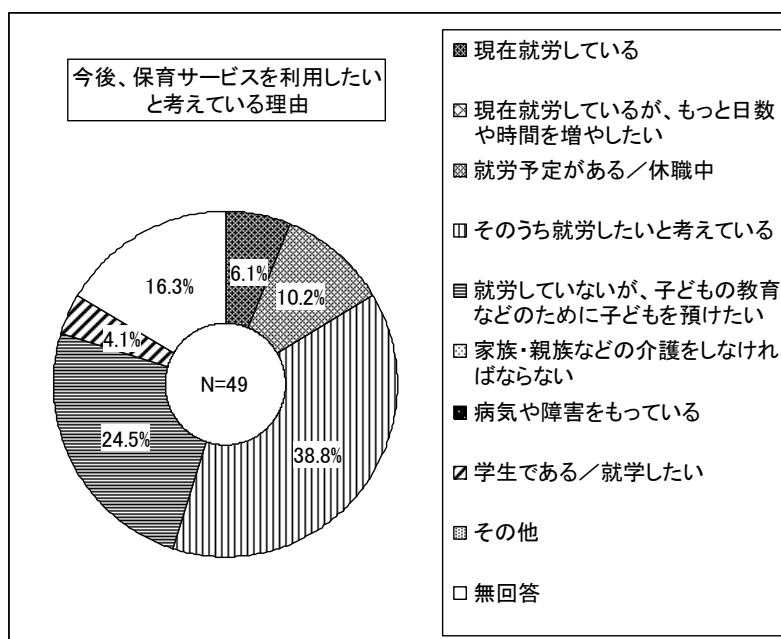
今後、利用したいサービスについては、「認可私立保育園」が51.9%で第1位となっています。第2位は「市立保育所」の46.2%、第3位は「私立幼稚園」、「一時預かり」の19.2%、第4位は「市立幼稚園」、「幼稚園の預かり保育」、「学童保育」の17.3%、第5位は「延長保育」の15.4%等と続いています。



⑨今後サービスを利用したいと考えている理由

今後サービスを利用したいと考えている理由では、「そのうち就労したいと考えている」が38.8%で最も多くなっています。

次いで「就労していないが、子どもの教育などのために子どもを預けたい」の24.5%、「就労予定がある／休職中」の10.2%、「現在就労している」の6.1%、「学生である／就学したい」の4.1%等となっています。



⑩子育てに関わる施策の評価（就学前児童）

子育てに関わる施策の評価については、「進んでいる」、「どちらかといえば進んでいる」を加え、進んでいるとする評価割合が最も高い項目は「子育てに関する相談支援について」で32.6%となっており、この項目のみ「どちらかというに進んでいないと思う」、「進んでいないと思う」を加え、施策が進んでいないとする評価割合を上回っています。

次いで、「子どもがのびのびと育つ教育環境について」の30.6%、「子育てに関する情報提供支援について」の29.1%、「地域で子育てを支援する地域活動について」の27.8%等と続いています。

逆に、「どちらかというに進んでいないと思う」、「進んでいないと思う」を加え、施策が進んでいないとされる評価割合が最も高い項目は、「子育て家庭等への支援について（経済的負担の軽減等）」で60.6%となっています。次いで「職業生活と家庭生活の両立支援について」の58.9%、「ゆとりある出産への支援について」の51.3%、「保育サービス基盤の整備について」の50.3%等となっています。

子育てに関わる施策の評価(N=1,633)	a		b		c		d		無回答	進んでいる (a+b)	進んでいない (c+d)
	進んでいると思う	どちらかというに進んでいると思う	どちらかというに進んでいないと思う	進んでいないと思う	何とも言えない						
子育てに関する相談支援について	4.6%	28.0%	19.3%	13.2%	27.7%	7.2%	32.6%	32.5%			
子どもがのびのびと育つ教育環境について	4.2%	26.5%	22.5%	14.8%	25.0%	7.1%	30.6%	37.3%			
子育てに関する情報提供支援について	4.1%	25.0%	23.6%	17.0%	23.1%	7.1%	29.1%	40.6%			
地域で子育てを支援する地域活動について	3.3%	24.5%	22.6%	14.9%	27.4%	7.3%	27.8%	37.5%			
保育サービス基盤の整備について	3.1%	22.4%	24.5%	25.8%	17.4%	6.8%	25.5%	50.3%			
子どもの権利を尊重するまちづくりについて	3.2%	21.7%	18.5%	13.8%	35.0%	7.8%	24.9%	32.3%			
安全と安心のあるまちづくりについて (防犯、防災、バリアフリーなど)	3.2%	18.2%	24.9%	20.4%	26.1%	7.1%	21.5%	45.3%			
親と子どもが健やかに育つ健康支援について	2.1%	19.4%	21.1%	16.8%	32.9%	7.7%	21.5%	37.9%			
ゆとりある出産への支援について	2.6%	14.5%	21.9%	29.4%	24.5%	7.1%	17.1%	51.3%			
子育て家庭等への支援について (経済的負担の軽減等)	1.8%	10.5%	23.1%	37.5%	20.3%	6.7%	12.4%	60.6%			
次代を育む親と子どもの教育支援について (次代の親となるための教育支援など)	1.0%	11.2%	24.6%	19.2%	36.7%	7.3%	12.2%	43.8%			
職業生活と家庭生活の両立支援について	0.7%	10.6%	24.5%	34.4%	23.1%	6.6%	11.3%	58.9%			
思春期保健の充実について	0.6%	5.5%	15.2%	17.6%	53.5%	7.7%	6.0%	32.8%			

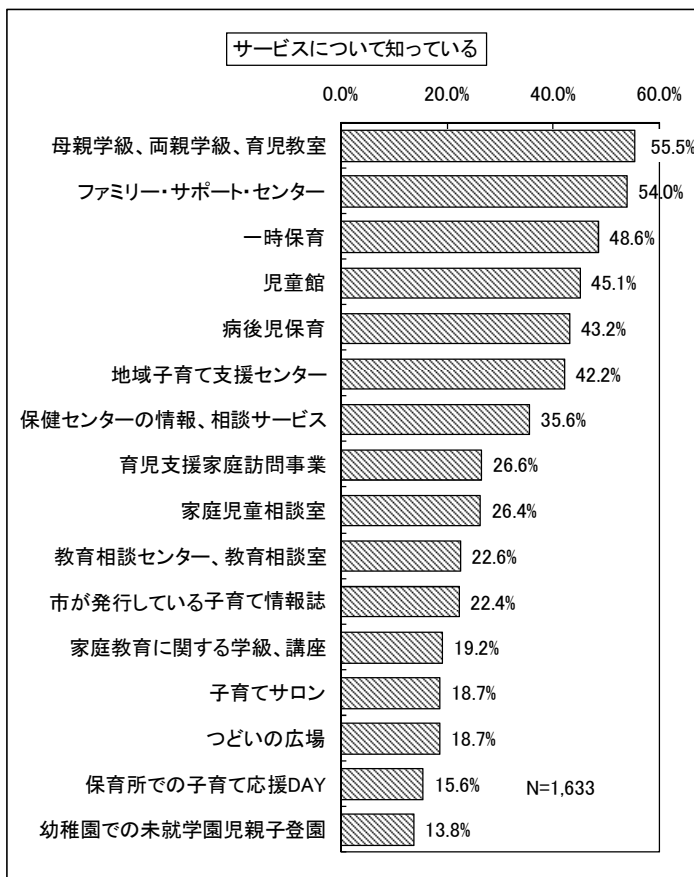
※「進んでいると思う」「どちらかというに進んでいると思う」を合わせた回答割合の高い順

⑪サービスの認知度、利用状況、今後の利用意向

A サービスの認知度

サービスの認知度については、「母親学級、両親学級、育児教室」が55.5%で第1位となっています。

第2位は「ファミリー・サポート・センター」の54.0%、第3位は「一時保育」の48.6%、第4位は「児童館」の45.1%、第5位は「病後児保育」の43.2%等となっています。

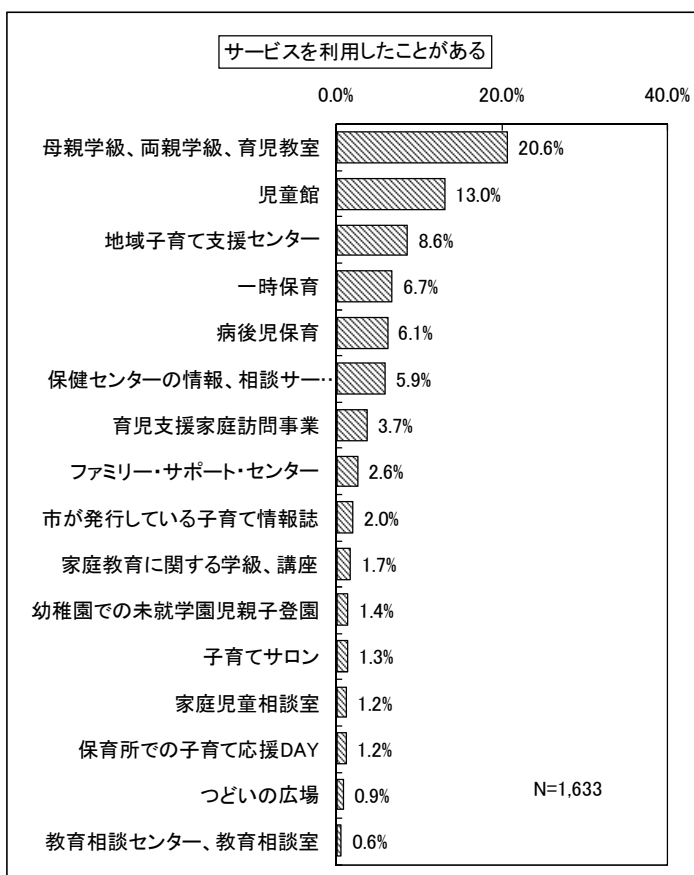


B サービスの利用状況

サービスの利用状況については、認知度が最も高い「母親学級、両親学級、育児教室」が20.6%で第1位となっています。

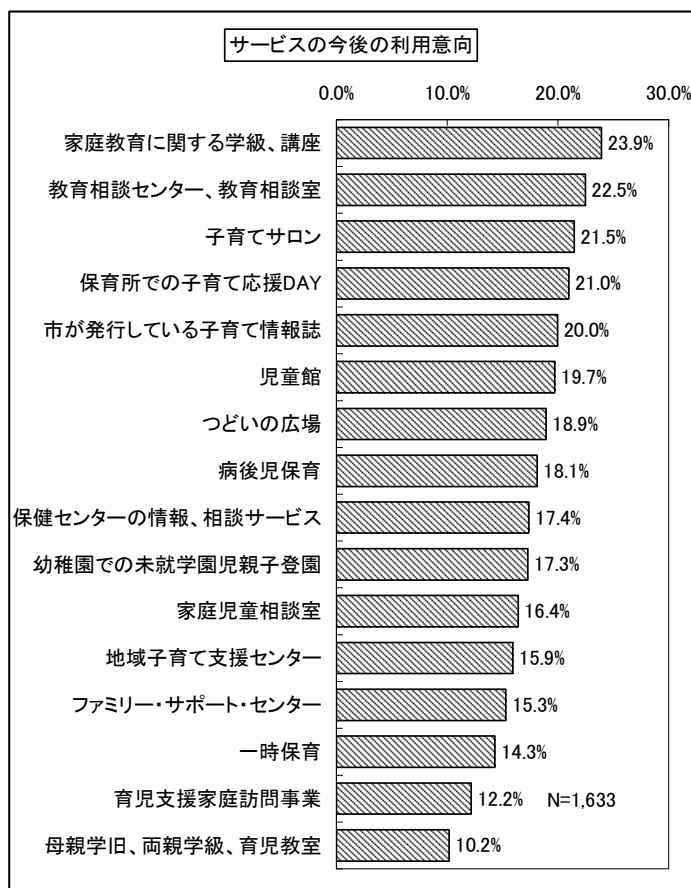
第2位は「児童館」の13.0%、第3位は「地域子育て支援センター」の8.6%、第4位は「一時保育」の6.7%、第5位は「病後児保育」の6.1%等と続いています。

各サービスの利用割合は認知度に比べ極めて低い状況にあります。



C サービスの今後の利用意向

サービスの今後の利用意向については、サービスの認知度、利用状況割合で下位に位置していた「家庭教育に関する学級、講座」が23.9%で第1位となっています。第2位は「教育相談センター、教育相談室」の22.5%、第3位は「子育てサロン」の21.5%、第4位は「保育所での子育て応援DAY」の21.0%、第5位は「市が発行している子育て情報誌」の20.0%等となっています。今後、利用意向が高いサービスは、相談支援、情報取得等に関係の深いサービスが上位にあげられています。



B-1 サービス利用の満足度

サービス利用満足度については、「満足」、「やや満足」を加え満足度が最も高いサービスは「母親学級、両親学級、育児教室」で85.2%となっています。

次いで、「地域子育て支援センター」の81.4%、「児童館」の78.9%、「育児支援家庭訪問事業」の78.3%、「病後児保育」の77.0%等となっています。

逆に「やや不満」、「不満」の割合が最も高い項目は「家庭教育に関する学級、講座」で42.9%、次いで「教育相談センター、教育相談室」の40.0%、「幼稚園での未就園児親子登園」の34.8%、「子育てサロン」の31.8%等となっています。

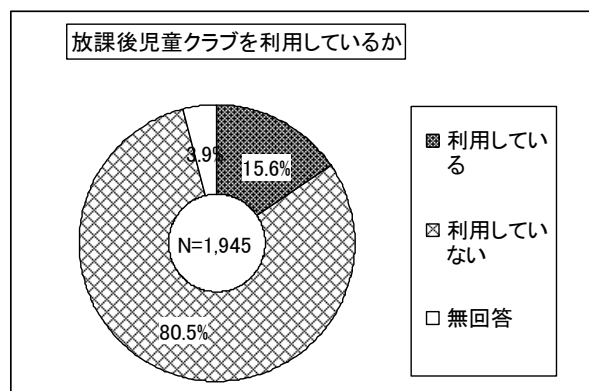
サービスの利用満足度	a					b		c		d	
	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	満足(a+b)	不満(c+d)				
母親学級、両親学級、育児教室 (N=337)	26.4%	58.8%	4.7%	2.1%	8.0%	85.2%	6.8%				
地域子育て支援センター (N=140)	47.1%	34.3%	12.1%	2.9%	3.6%	81.4%	15.0%				
児童館 (N=213)	36.2%	42.7%	8.9%	2.3%	9.9%	78.9%	11.3%				
育児支援家庭訪問事業 (N=60)	41.7%	36.7%	10.0%	5.0%	6.7%	78.3%	15.0%				
病後児保育 (N=100)	42.0%	35.0%	7.0%	5.0%	11.0%	77.0%	12.0%				
保健センターの情報、相談サービス (N=96)	22.9%	53.1%	13.5%	4.2%	6.3%	76.0%	17.7%				
家庭児童相談室 (N=20)	20.0%	50.0%	5.0%	15.0%	10.0%	70.0%	20.0%				
市が発行している子育て情報誌 (N=33)	27.3%	42.4%	12.1%	6.1%	12.1%	69.7%	18.2%				
ファミリー・サポート・センター (N=42)	38.1%	31.0%	11.9%	9.5%	9.5%	69.0%	21.4%				
保育所での子育て応援DAY (N=19)	21.1%	47.4%	0.0%	15.8%	15.8%	68.4%	15.8%				
一時保育 (N=110)	42.7%	21.8%	18.2%	6.4%	10.9%	64.5%	24.5%				
子育てサロン (N=22)	40.9%	18.2%	13.6%	18.2%	9.1%	59.1%	31.8%				
つどいの広場 (N=14)	28.6%	28.6%	0.0%	14.3%	28.6%	57.1%	14.3%				
幼稚園での未就園児親子登園 (N=23)	13.0%	34.8%	13.0%	21.7%	17.4%	47.8%	34.8%				
家庭教育に関する学級、講座 (N=28)	3.6%	42.9%	28.6%	14.3%	10.7%	46.4%	42.9%				
教育相談センター、教育相談室 (N=10)	10.0%	20.0%	10.0%	30.0%	30.0%	30.0%	40.0%				

※「満足」「やや満足」を合わせた回答割合の高い順

■小学生アンケート

⑫放課後児童クラブを利用しているか（小学生）

放課後児童クラブの利用状況は、「利用していない」が80.5%、「利用している」が15.6%となっています。

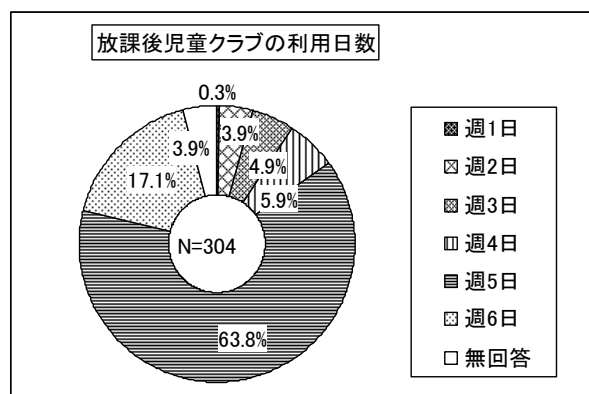


⑬放課後児童クラブの利用状況（「利用している」と回答）

放課後児童クラブを利用している場合の利用日数は、「週5日」が63.8%で最も多くなっています。

次いで「週6日」の17.1%、「週4日」の5.9%、「週3日」の4.9%等と続いています。

1日あたりの平均利用時間は2.9時間となっています。

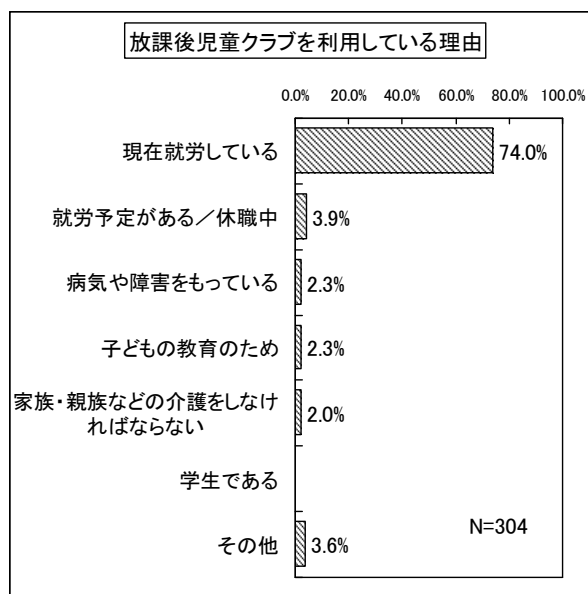


	平均時間
1日あたり利用時間	2.9 時間

⑭放課後児童クラブを利用している理由

放課後児童クラブを利用している理由は、「現在就労している」が74.0%で第1位となっています。

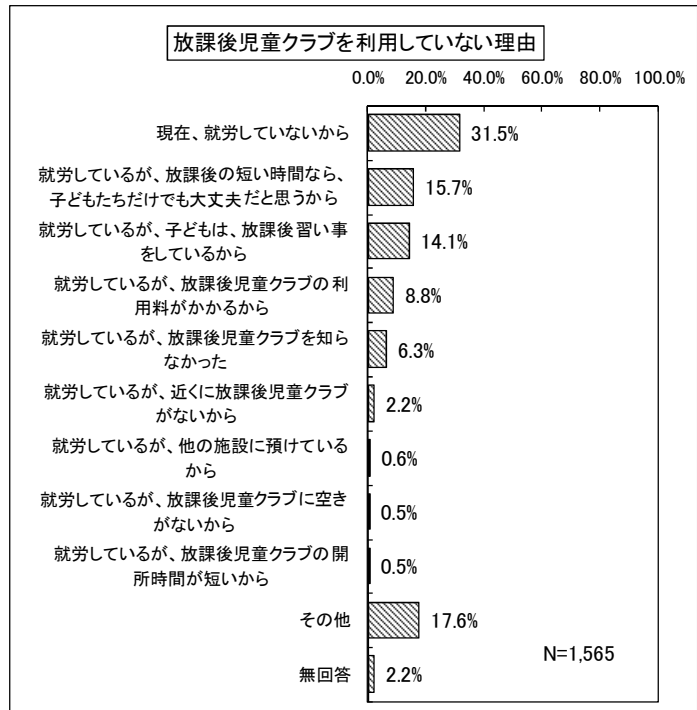
第2位は「就労予定がある／休職中」の3.9%、第3位は「病気や障害をもっている」、「子どもの教育のため」の2.3%となっています。



⑮放課後児童クラブを利用していない理由

放課後児童クラブを利用していない理由は、「現在、就労していないから」が31.5%で第1位となっています。

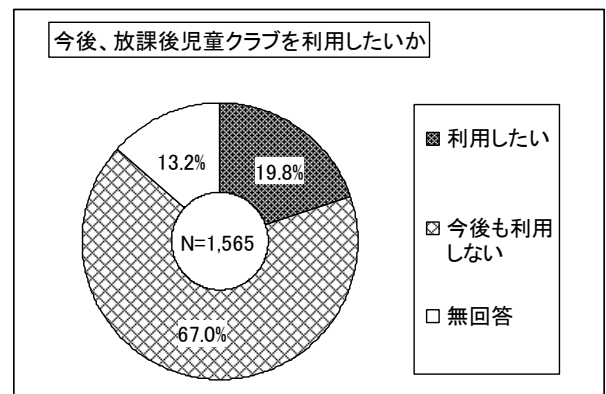
第2位は「就労しているが、放課後の短い時間なら、子どもたちだけでも大丈夫だと思うから」の15.7%、第3位は「就労しているが、子どもは、放課後習い事をしているから」の14.1%、第4位は「就労しているが、放課後児童クラブの利用料がかかるから」の8.8%、第5位は「就労しているが、放課後児童クラブを知らなかった」の6.3%等と続いています。



今後の利用ニーズとなる「就労しているが、放課後児童クラブを知らなかった」、「就労しているが、近くに放課後児童クラブがないから」、「就労しているが、放課後児童クラブに空きがないから」等の合計割合は9%程度となっています。

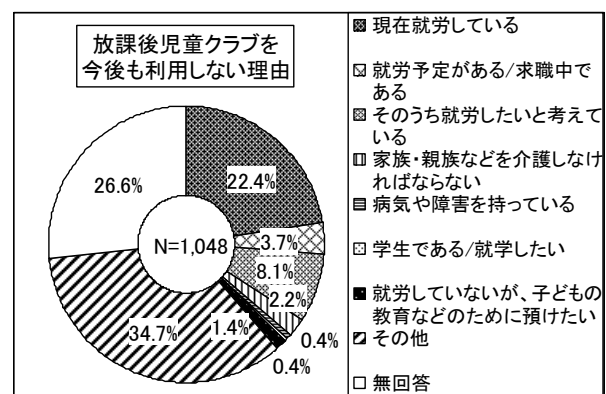
⑯放課後児童クラブの今後の利用意向

放課後児童クラブの今後の利用意向は、「今後も利用しない」が67.0%、「利用したい」が19.8%となっています。



⑰放課後児童クラブを今後も利用しない理由

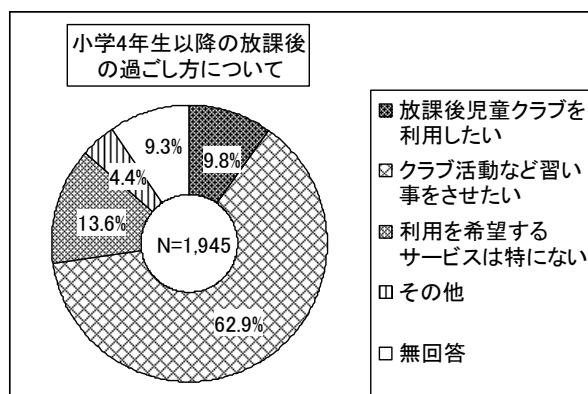
放課後児童クラブを今後も利用しない理由は、「その他」が34.7%で最も多くなっています。次いで「現在就労している」が22.4%、「そのうち就労したいと考えている」が8.1%、「就労予定がある/求職中である」が3.7%となっています。



⑱小学4年生以降の放課後の過ごし方

小学4年生以降の放課後の過ごし方については、「クラブ活動など習い事をさせたい」が62.9%と半数以上を占め最も多くなっています。

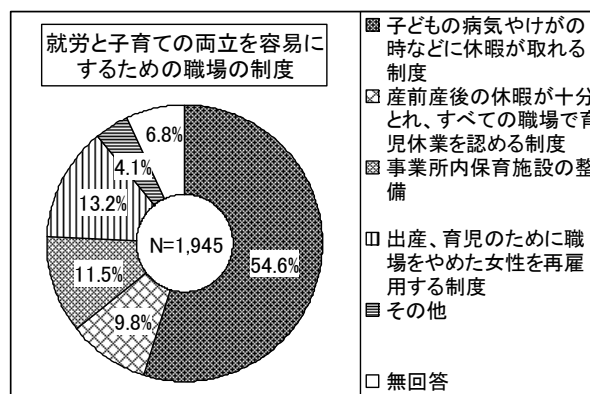
次いで「利用を希望するサービスは特にない」の13.6%、「放課後児童クラブを利用したい」の9.8%、「その他」の4.4%となっています。



⑲就労と子育てを両立するためにどのような制度が必要か

就労と子育てを両立するためにどのような制度が必要かについては、「子どもの病気やけがの時などに休暇が取れる制度」が54.6%と半数以上を占め最も多くなっています。

次いで「出産、育児のために職場をやめた女性を再雇用する制度」の13.2%、「事業所内保育施設の整備」の11.5%、「産前産後の休暇が十分とれ、すべての職場で育児休業を認める制度」の9.8%等となっています。



⑳地域で子育てを行う環境について

地域で子育てを行う環境についての評価で「進んでいる」、「どちらかといえば進んでいる」の合計割合が最も高い項目は「子育てに関する相談支援について」が28.8%となっています。

次いで「子どもがのびのびと育つ教育環境について」の27.1%、「子育てに関する情報提供支援について」の26.5%、「安全と安心のあるまちづくりについて(防犯、防災、バリアフリーなど)」の24.4%等となっています。

しかし、いずれの項目についても「どちらかといえば進んでいないと思う」、「進んでいないと思う」とする割合の合計を下回る結果となっています。

また、「どちらかといえば進んでいないと思う」、「進んでいないと思う」の合計割合が最も高い項目は、「子育て家庭等への支援について(経済的負担の軽減等)」で60.5%となっています。

次いで「職業生活と家庭生活の両立支援について」の58.8%、「保育サービス基盤の整備について」の51.0%、「ゆとりある出産への支援について」の50.6%となっています。

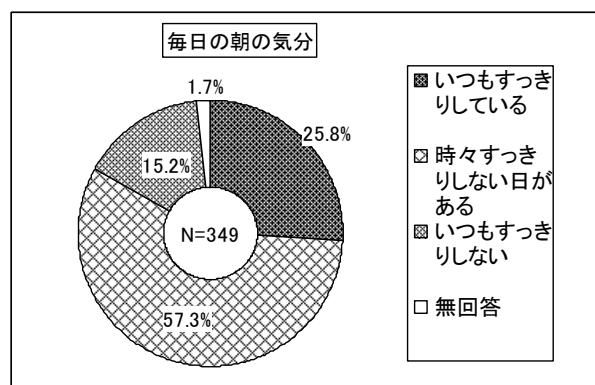
	a		b		c		d		進んでいる (a+b)	進んでいな (c+d)
	進んでいる と思う	どちらかとい うと進んでい ると思う	どちらかとい うと進んでい ないと思う	進んでいな いと思う	何とも言え ない	無回答				
子育てに関する相談支援について	4.8%	24.0%	23.7%	13.5%	26.2%	7.9%	28.8%	37.2%		
子どもがのびのびと育つ教育環境について	3.8%	23.3%	25.0%	17.4%	23.0%	7.5%	27.1%	42.5%		
子育てに関する情報提供支援について	3.6%	22.9%	25.6%	15.2%	24.7%	8.1%	26.5%	40.8%		
安全と安心のあるまちづくりについて (防犯、防災、バリアフリーなど)	3.5%	20.9%	25.1%	21.6%	21.2%	7.7%	24.4%	46.7%		
子どもの権利を尊重するまちづくりについて	3.6%	20.2%	21.3%	14.6%	31.9%	8.4%	23.8%	35.9%		
地域で子育てを支援する地域活動について	3.0%	20.6%	24.3%	18.6%	25.8%	7.8%	23.5%	42.9%		
保育サービス基盤の整備について	2.7%	19.2%	24.6%	26.4%	19.3%	7.8%	21.9%	51.0%		
親と子どもが健やかに育つ健康支援について	2.0%	16.7%	23.7%	17.3%	32.1%	8.3%	18.7%	41.0%		
ゆとりある出産への支援について	2.0%	10.5%	24.0%	26.6%	28.8%	8.1%	12.4%	50.6%		
次代を育む親と子どもの教育支援について (次代の親となるための教育支援など)	1.6%	9.9%	26.6%	21.5%	32.1%	8.2%	11.5%	48.1%		
子育て家庭等への支援について (経済的負担の軽減等)	1.4%	9.0%	24.1%	36.5%	21.4%	7.6%	10.4%	60.5%		
職業生活と家庭生活の両立支援について	1.0%	7.0%	25.0%	33.8%	25.5%	7.7%	8.0%	58.8%		
思春期保健の充実について	0.8%	7.1%	20.4%	21.7%	41.5%	8.5%	7.9%	42.1%		

■中学生アンケート

①毎日の朝の気分

毎朝の気分は、「時々すっきりしない日がある」が57.3%と半数以上を占め最も多くなっています。

次いで「いつもすっきりしている」の25.8%、「いつもすっきりしない」の15.2%となっています。

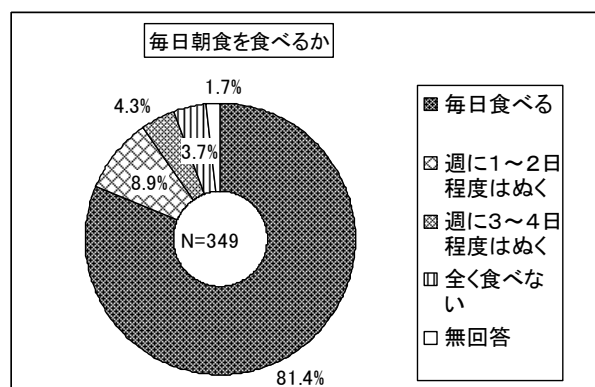


②毎日朝食を食べるか

朝食の状況は、「毎日食べる」が81.4%で最も多くなっています。

次いで「週に1～2日程度はぬく」の8.9%、「週に3～4日程度はぬく」の4.3%、「全く食べない」の3.7%となっています。

朝食を週に3日以上ぬく割合は8%となっています。

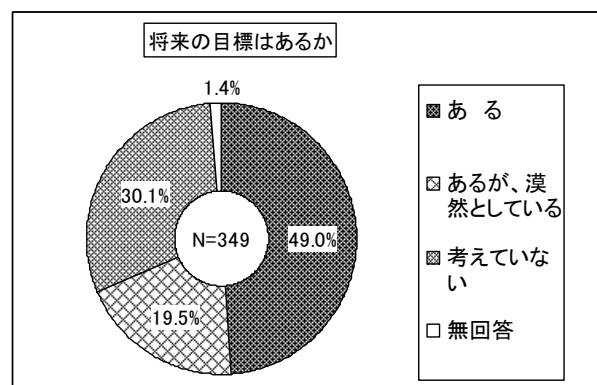


③将来の目標はあるか

将来の目標の有無については、「ある」が49.0%で最も多くなっています。

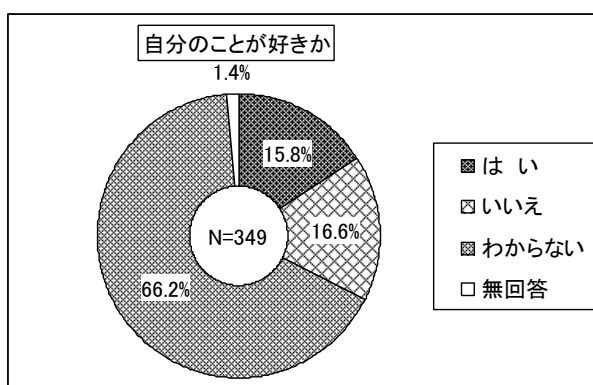
次いで「考えていない」が30.1%、「あるが、漠然としている」の19.5%となっています。

「あるが漠然としている」を含め、将来の目標を持っているとする回答割合は68.5%となっています。



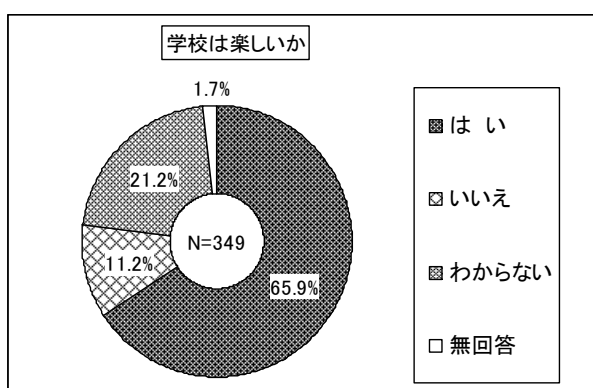
④自分のことが好きか

自分のことが好きかについては、「わからない」が66.2%で最も多くなっています。次いで「いいえ」の16.6%、「はい」の15.8%となっています。



⑤学校は楽しいか

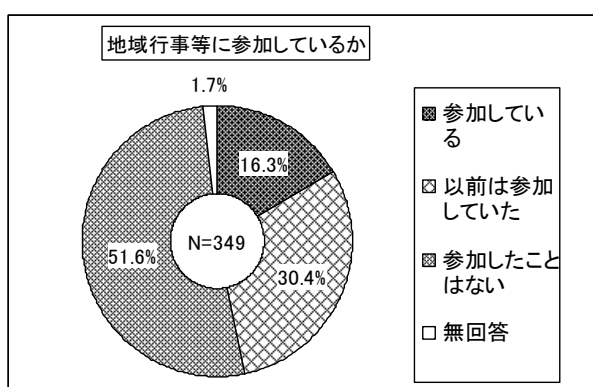
学校は楽しいかについては、「はい」が65.9%で最も多くなっています。次いで「わからない」の21.2%、「いいえ」の11.2%となっています。



⑥地域行事や地域活動等に参加しているか

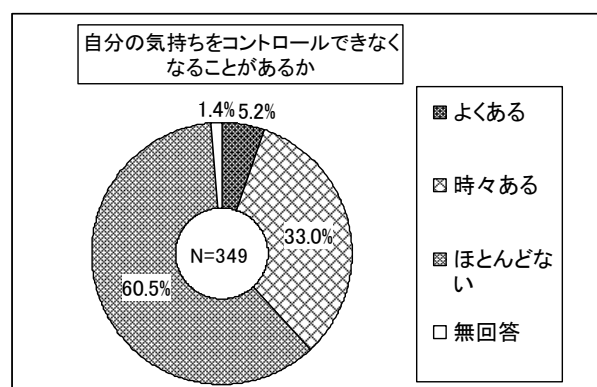
地域行事や地域活動等への参加状況は、「参加したことはない」が51.6%と半数以上を占め最も多くなっています。次いで「以前は参加していた」の30.4%、「参加している」の16.3%となっています。

地域行事や地域活動等への参加した経験がある割合は46.7%となっています。



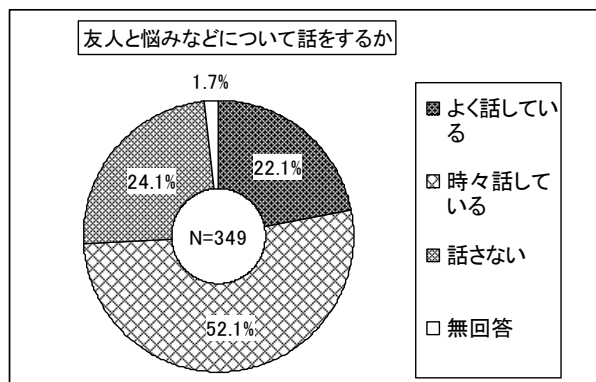
⑦自分の気持ちをコントロールできなくなることがあるか

自分の気持ちをコントロールできなくなることがあるかについては、「ほとんどない」が60.5%で半数以上を占め最も多くなっています。次いで「時々ある」の33.0%、「よくある」の5.2%となっています。



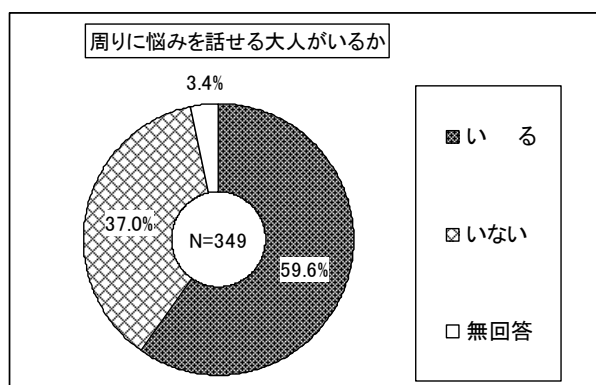
⑧友人と悩みなどについて話をするか

友人と悩みなどについて話をするかについては、「時々話している」が52.1%と半数以上を占め最も多くなっています。次いで「話さない」の24.1%、「よく話している」の22.1%となっています。



⑨周りに悩みを話せる大人がいるか

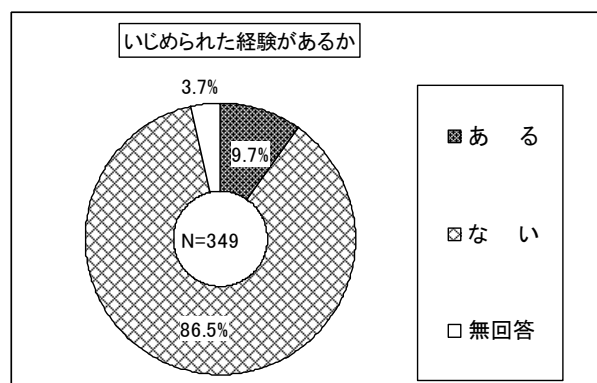
周りに悩みを話せる大人がいるかについては、「いる」が59.6%、「いない」が37.0%となっています。



⑩いじめられた経験があるか

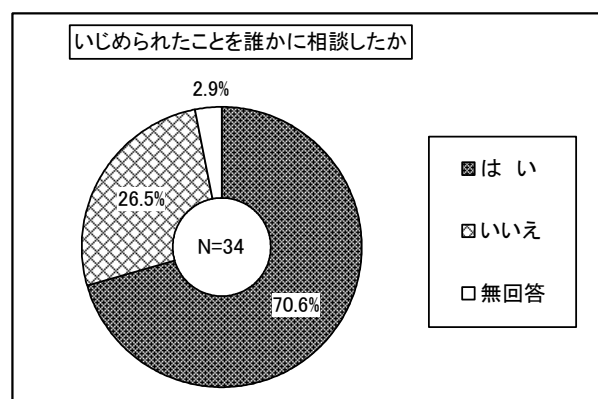
いじめられた経験があるかについては、「ない」が86.5%、「ある」が9.7%となっています。

いじめられた経験を持つ生徒の割合は10%に満たないものですが実数では34人となっています。



⑫いじめられたことを誰かに相談したか

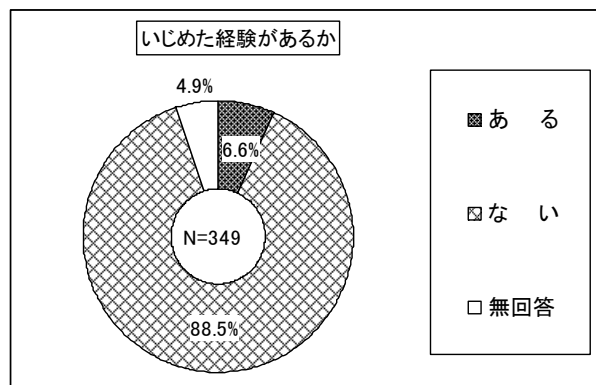
いじめられたことを誰かに相談したかについては、「はい」が70.6%、「いいえ」が26.5%となっています。



⑬いじめた経験があるか

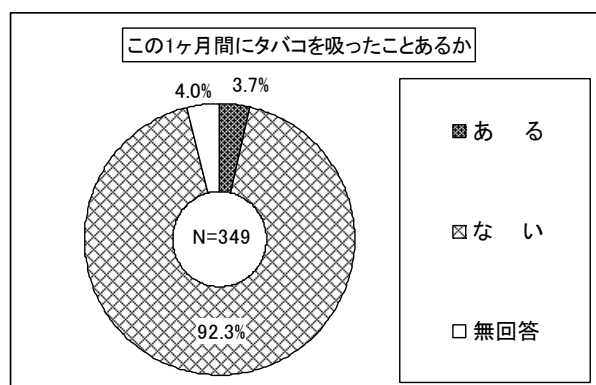
いじめた経験があるかについては、「ない」が88.5%、「ある」が6.6%となっています。

いじめられた経験が「ある」とする割合(9.7%)に比べいじめた経験が「ある」とする割合は3.1ポイント低くなっています。



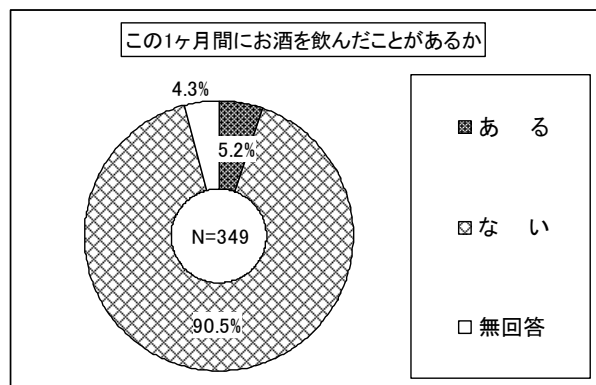
⑭この1ヶ月間にタバコを吸ったことがあるか

この1ヶ月間にタバコを吸ったことがあるかについては、「ない」が92.3%、「ある」が3.7%となっています。



⑮この1ヶ月間にお酒を飲んだことがあるか

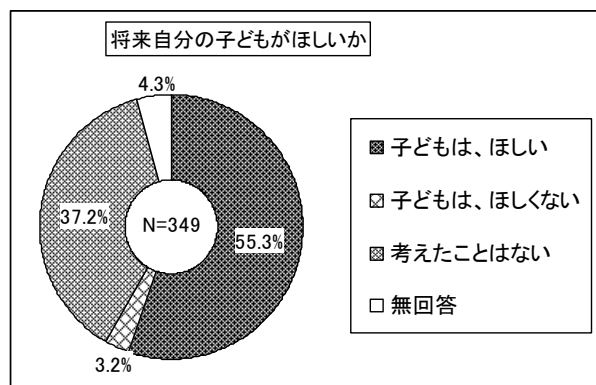
この1ヶ月間にお酒を飲んだことがあるかについては、「ない」が90.5%、「ある」が5.2%となっています。



⑯ 将来自分の子どもがほしいか

将来自分の子どもがほしいかについては、「子どもは、ほしい」が55.3%と半数以上を占め最も多くなっています。

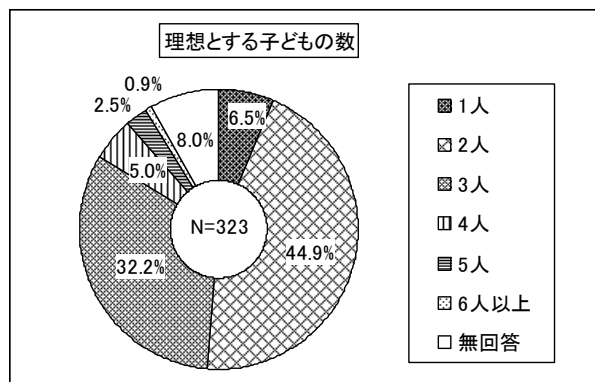
次いで「考えたことはない」の37.2%、「子どもは、ほしくない」の3.2%となっています。



⑰理想とする子どもの数

理想とする子どもの数は、「2人」が44.9%で最も多くなっています。

次いで「3人」の32.2%、「1人」の6.5%、「4人」の5.0%、「5人」の2.5%、「6人以上」の0.9%となっています。

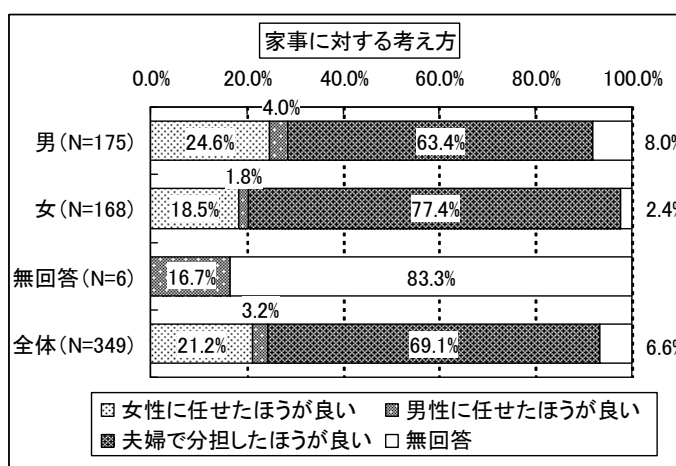


⑱家事に関する考え方

家事に関する考え方については、「夫婦で分担したほうが良い」が69.1%で最も多くなっています。

次いで「女性に任せたほうが良い」の21.2%、「男性に任せたほうが良い」の3.2%となっています。

男女別にみると、「女性に任せたほうが良い」とする回答割合は、男性が女性に比べ6.1ポイント上回っています。

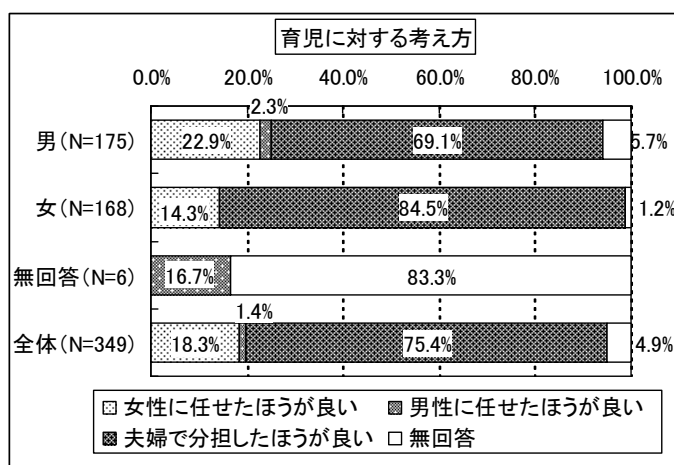


⑲育児に関する考え方

育児に関する考え方については、「夫婦で分担したほうが良い」が75.4%で最も多くなっています。

次いで「女性に任せたほうが良い」の18.3%、「男性に任せたほうが良い」が1.4%となっています。

男女別にみると「女性に任せたほうが良い」とする回答割合は、男性が女性に比べ8.6ポイント上回っています。



NO	就学前ニーズ調査の自由意見
1	0歳～2歳頃までは自分で子供と過ごしたいと思うのですが、保育サービスを受けたいと思った2歳～3歳頃に保育相談に行くと認可保育園に待機児童が多い様な気がしました。認可保育園の数がたりないのでしょうか？
2	24時間保育所の実現、出来なければ延長保育時間19時⇒21時へ延長・育児休業明けの保育園受付の柔軟な対応、就業状態でなくても申請できるようにしないと。復帰する日と決定できない。認可と認可外両方に申込しているのが現状。
3	2年幼稚園があれば経済的にも助かる。私立保育園での保育料が高かったため、とても苦しかったです。
4	3番目の子を出産の際、上の子2人の保育継続届けを出すと、母親の産後、3ヶ月までしか育児休業扱いとはならない、復職しないと保育継続が難しいこともあるといわれた。復職となると、3番目の子を預かる保育園を探すのも大変でした。認可保育園は、待機児童も多くすぐに入園できる状況ではないし、認可外に預けるとなると経済的負担も大きいです。上の子2人の保育継続のためにも産後2ヶ月半ほどで復職しました。産後上の子を保育園に預けて、新生児との時間をゆっくりと取りたいと考える方もたくさんいると思います。仕事をしない(復職しない)からといって、上の子の保育園の継続が困難になるとはおかしなことだと思います。安心して子育てをしていくためにも認可保育園を増やしたりゆとりを持って子育て・就業できるような制度増やしてほしいとおもいます。
5	育児に関して悩むこと(考えること)もあるが、知人や子育て中のママに相談することで気持ちも前向きになると思います。何でも保育園や利用施設に任せきりの親も多い環境で、お金を払えばサービスと言わんばかりに、当たり前の子供を預けて遊びに行く環境を何とかすべきだと思います。もっと自分の子供と深く関わることで楽しさを見つけたり、近くの人(横のつながり)に少しお願いできるような雰囲気になれたらと思います。病児保育の時間を長くするよりも会社が休みを(病休保育5日とか)取れる環境で、親が心おきなく関わって見てあげられたら一番良いと思ってます。ぜひ市長の方から事業所の方に働きかけていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。
6	育児休暇あけのまえから、保育園に預けられるようにして欲しい。子供も新しい環境に慣れるまで時間もかかるし、スムーズに仕事の復帰ができず、大変だった。仕事復帰したばかりなのに子供の体調不良で休まざるを得ず、大変な思いをしました。どうにかできないかと思う。
7	育児休業は1年とれますが、上の子の保育園入所の為と、3ヵ月～半年で復帰を決意せざるを得なく戻ってくる母親も多いと思います。私はもう出産の予定はありませんが、今後、働く女性が、堂々と出産しても上の子を保育園へ預ける事に理解ある地域になれば、仕事と出産のストレスが軽減し、母親もゆったり休業し、乳児のお世話ができ助かると思います。この気持ちが、長く仕事を続けていける基盤になると思います。乱筆乱文ですみません。
8	育児に関しての悩み: 育児・家事・仕事の両立が大変です。子どもの年齢に応じて働ける時間も変わってくると思うので、もっと柔軟で働きやすい時間帯の職場が増えてくれるといいのですが、一時保育や病後保育などのサポートは確かに助かりますし必要ですが、本当は家庭で見てあげたいと思います。・保育行政に望むこと: 現在、認可外ですが逆に少人数をいかした保育、雰囲気保育料も、とても満足しています。認可、認可外に関わらず、園児1人1人の食事に差がないような補助をしてほしいです。他の認可外を見学した際に、内容に差があるようだったので、施設、人数では有りでも、食事は重視してほしいと思いました。
9	育休明けで仕事復帰の前日などに保育園の入園が決定し準備等でバタバタし、なかなか仕事との調整も出来ず大変でした。できれば、復職の20日前～1ヶ月前位には登園できるようにして欲しい。

10	以前に比べて病児保育が預けやすくなっている(8時から受けてくれる)。しかし病児保育をしてくれる病院、施設が少ないので困っています。認可保育園でも看護師が居る所も多いので熱くらいなら受け入れできるのでは？(体制を作って欲しい)。そしたら自分の保育園にいつも通り預けきれて行ったり来たりがなくなり助かります。
11	今の時点では、子供がいる母親の為の就職を助ける為の、保育サービスにばかり目が向けられています。子供にとって何が大事か、子供の教育には、親からの愛情、教育が一番大切だということも忘れずに。親子の距離を広げるばかりの対策ではなく、親が自分の子供を自分の手できちんと教育し、子供から親がたくさんにことを学ぶという、親子の絆が深まる対策に力を入れて欲しいと思います。保育園を増やすばかりが対策ではないと思います。安心して親が自分の子供を自分で育てられるように考えて欲しいです。
12	医療費助成を小学校卒業時までにしてほしい。
13	いろんなサービス等があると思うが、全然知れ渡ってないのが現状。もっと、多くの人に多種多様なサービス、施設があること、利用しやすいようにしてほしい。
14	上田小区域に児童館を設置してほしい。(県内1マンモス校といわれているが、下校後子供たちが安全に遊べる場所が少ない)
15	延長保育もありがたいのですが、早朝保育という制度はないでしょうか？仕事から始業時間が早いので、そういう制度があれば助かります。・保育士研修制度や免許条件等はないでしょうか？一定以上の保育の質を保つのなら、そのような制度導入があれば保護者として安心して子供を預けることができます。
16	各小学校に学童の放課後児童クラブを作って欲しい。私は大阪出身ですが大阪には各学校で学童クラブがあるので子供の移動も必要なく料金も安く親にとってはとても良いです。今の様な保育園の付属の学童では料金も高く子供の移動もあるので大変です。
17	各保育所によって保育士が違います。認可、認可外問わず、保育士の質の向上を望みます。
18	宜保地区に児童館の新設を是非よろしくお願ひします。現在大変生徒数が増えるなか、学童以外の子供たちが安心して遊べる場が「にこにこ公園」しかなく、不便な状態ですので、わくわく児童館のような施設が必要です。公務員宿舎や自衛隊宿舎が多いので、学童に入れずにいる方が多く、もっと安全、安心な遊びの場を求める声が高まっています。どうぞよろしくお願ひします。
19	県外から来たのが2年前です。公立幼稚園が(一年間ですが)あるのはありがたいと思いました。小学校へ入学する前に、たくさんのお友だちと触れ合える環境は、素晴らしいと思います。今の時代は、子供一人ひとりの個性や成長に合わせて(発達を考慮しながら)保育サービスが受けられます。子供たち一人ひとりを大切にあげられる行政の取り組みに期待します。・医療費の助成を、病院の窓口で直接受けられるようになると、乳幼児を育てている方々には、もっとありがたいと思います。よろしくお願ひします。

20	<p>現在、認可保育園に通っている。残業も多いのでお迎えが延長保育のPM7:00までに間に合わない日が多々あり、ファミリーサポートの方にお迎えを依頼している。ファミリーサポート利用当初は、自宅保育のできない方が担当であった為、園にお迎えに行ってもらい、別の保育所へ送ってもらって、そこで一時預かりをお願いしていた。金銭的負担が大きく困っていたら、サポートセンターから連絡があり、自宅保育可能な方に引き継いでもらったので、とてもありがたいと思っている。保育園に対する不満は全くない。先生方は常に明るく子供達に接しているし、食事も申し分ない内容で満足している。特に冷凍ギョウザ事件があった頃、「園では皮から手作りしている。」との報告があり、胸をなでおろすと同時に、大事な命を安心して預けられる保育園だと改めて感じた。4年間、無事故で元気に卒園できることに心から感謝している。</p>
21	<p>現在、身近(本島内)に祖父母や身内がいがないため、子供が病気になった時に預ける所が病児保育を行っている小児科等しかないため出来れば園内で病児保育が出来ればとても助かります。又、祝日に仕事がある場合もあるので祝日も園で見てもらえたらと思います。</p>
22	<p>現在子育て支援センターや、児童館を利用していますが、子供が小さい頃は良かったのですが、3才にもなると、もの足りなくなってきた、本人も支援センターよりも公園に行きたがるようになってきました。親としては、同じ年頃の子供とのかかわりをもたせてあげたいのですが、支援センター等は小さい子ばかりでなかなか同じあそびは出来ません。3~5才位を対象とした場があると良いと思います。</p>
23	<p>現在通っている保育園には大変満足しています。行政に望むことは、予防接種を平日に受けられるようにしてほしいです。また、正社員にもかかわらず年に何度も勤務証明をとる仕組みはやめてほしいです。(押印請求など事務手続きが複雑なので、怪しい人だけ調査すれば良いと思います。)</p>
24	<p>健診時に子育て支援についてくわしく聞いて、初めて知り利用しましたが、それも知りたいと思ってから随分たってからで、普段役所に行っても時間がなく(小さな子を連れては大変な為)在宅児童に対し子育て支援センターやサークル等のダイレクトメールでも頂ければ・・・と思いました。</p>
25	<p>公園を作してほしい。子供が歩いて行ける範囲で寺小屋みたいな塾など、おけいこ事があればいい。放課後、学校でクラブ活動をしてほしい(低学年は無いので作してほしい)。医療費の無料化を望む。</p>
26	<p>子育て支援センターや児童館親子で歩いていける範囲でないと利用し辛い。拠点を増やして欲しい。5歳児検診を実施して欲しい。1歳児・3歳児検診時の相談を丁寧にして欲しい。子供の飲酒やタバコ、深夜徘徊等に関心のない大人への働きかけを行って欲しい。子供が病気、親が仕事の場合の預け先は充実させていると思いますが本来子供の立場に立ったなら病気の時くらい親と過ごせる環境が必要だと思います。子の病気で仕事の都合がつけやすくなる様企業や会社、団体等への働きかけを行って欲しい。親子分離より親子の愛着形成に重点を置いて頂きたいです。</p>
27	<p>子育て情報誌とか、いろいろな情報は仕事してる間、なかなか市役所に行けず情報を得ることができません。保育園にあれば助かります。</p>
28	<p>子育ての情報等は広報豊見城で見えています。市が発行している情報誌があるのは知りませんでした。できるだけ利用できるサービスや支援は、受けられるように知ることが大切だと思いました。子育ては大変だなあと感じる事もありますが、何度か市で行っている乳幼児検診等にも参加しました。初めて会った人や同じように子育てしている方とお話できたりするので良かったです。いろいろ調べて利用したいので宜しくお願いします。</p>

29	<p>子供が障害児です。(自閉症)尚かつ夫婦共に県外出身なので、誰も頼る人はいません。保育園はあくまでも働いている家庭対象との事で、うちの様な子には集団生活をさせる為のプランが見えないので、豊見城市(沖縄県)にはかなり不満を持っています。那覇市の様な寮育センターを早くつくって欲しいです。そして幼稚園等と連携して、障害児を市全体で受け止めてくれる方針を早く確立して下さい。</p>
30	<p>仕事と子育てに、毎日がめまぐるしく過ぎてしまい、行政の情報が入ってきません。又、仕事が休みの時は、行政も休みなので、すれ違いが生じている現実があります。支援は何なのか良くわからないが、子供が成長していく過程と一緒にすごしていくのは幸せです。皆同じと思います。小さい子供を持つ方々は世話に手がとられることを理解して下さいれば、一生続く事ではないので、乗りこえていけると思います。親の義務として、自立できる社会人として送り出したいと願っている次第です。</p>
31	<p>児童クラブは小学生の親からすると、ありがたい所もあるのですが、幼稚園から小学まで全体で見ると、校区での学童クラブがあるとイイと思います。→子供達も同じ年の子と一緒に遊びたいけど学童に行く子、家に帰る子、いろんな子がいてどうしても遊びたい時学童を休んだり、学童に行く前に遊んで学童行くのが遅くなったりして学童に迷惑かけたり、親としては仕事をぬけ、さがしに行ったりする時があったので、校区での学童があれば学校から出ずに友達とも遊べるので親としては安心できます。※第1子の時に思った事です。※校区に学童があれば小1～小6まで預けられると思います。</p>
32	<p>市の監査、労働基準局による指導等は良いと思うが、それだけでなく、認可園と同等程度の基準を満たしているのなら、認可園と同様に支援金を助成してほしいと心から願います。保育料も安くなく、しかし保育料だけでは保育園の運営もとても厳しい状況にあると思います。そんな中、たくさんの色々な行事をこなし、園長をはじめ保育士の皆さんには感謝しています。認可園と認可外保育園では、施設、設備、給食の内容、質をはじめ、職員の給与など、雲泥の差があります。そのような格差を少しでも訂正してほしいと思います。認可外保育園も必要です。</p>
33	<p>就職難のこの時勢にやっと仕事を見つけても、保育園(認可)に入れなければ辞めざるを得ません。認可外保育園は経済的負担も大きく、サービス内容もあまりにも粗末で悲しくなります。児童家庭課に相談に行っても「待機です」とあっさり対応され、誰一人として親身に対応する職員は居ませんでした。働かないといけなくても、働きたくても小さな子供が居るだけで、就職先を見つけることは大変です。それなのに就職先を見つけても、保育園が足りなければ家庭で保育せざるを得ません。育児サービスの一つとしてベビーシッターや一時保育を利用したいと思うより、不安が先に立ちます。一番に整えなければいけないのは現在する保育園のサービスの質の向上と待機児童をなくすことだと思います。</p>
34	<p>障害児に対する情報や子育てをしやすい環境作りをしてもらいたい。例えば→親子同志集まって、悩み相談やつどいのあると良い。健常児ばかりではなく、障害児に対しての知識をしっかりと身につけてもらいたい。(ファミリーサポートでは利用不可なので、働いている親たちは利用したくても出来ない為、人材を育成してもらいたい。)豊見城市民で我が子を育てていって良かった、他市に自慢になる、子育てしやすい、働いていても育児しやすい行政になってもらいたいです。</p>
35	<p>小学校の緊急メールの方を利用していますが、とてもいいと思います。今後も防犯など見回りなどに力を入れて欲しいと思います。とにかく、弱い子供たちを守ることを力強くしてほしい。</p>
36	<p>市立幼稚園を2年保育にして欲しい。(少子化のため、近所に子供が少ない事と、子供がいても習い事や、保育園利用で帰りが遅いため。)・子育て中の悩みは多いです。深く理解するためにも、ぜひ、勉強は必要ではないか?と思います。しかし、問題となる子供の行動(多動、いじめ、いじめられっ子、過保護問題)などの講習会は、どれも満足いくものではありませんでした。トータル的に問題を考え、対象する講習会を希望します。又、家庭教育と幼稚園教育の連携も必要だと思います。以前に他市町村で行われた保育講習会での講師で、又吉正治氏の講習会が豊見城市でも行われる事を期待しています。</p>

37	地域子育て支援センター、児童館、ファミリーサポートセンターなど、全く利用できない。利用したくてもどうすればよいか分からない。もっと誰にでもわかりやすい説明が必要だと思う。もっと子育てを支援してくれる場所が増えたほうが良いと思う。子供たちの為に。
38	土日祝日など、仕事の際に預けられる保育園、幼稚園があつて欲しい、預けられない人は仕事の時等が大変。土日祝日休みの仕事は現実的に少ない、特にサービス業は休めないと思う。
39	どのような子育て支援サービスがあるのか、地域がどのような子育て支援環境を整備しているのか情報に乏しくよくわかりません。近くに祖父母がおり、地域の子育て支援について、特に(早急に)必要性を感じないため、自分から積極的に情報を集めたりもしていません。もっと生活において、目につきやすい場所や、媒体にその情報があればもっと利用できる子育て支援プログラムがあるかもしれません。
40	豊見城市は子育てしやすい町だと、友人、知人からよく聞きます。実際私も、豊見城市で出産、育児ができて良かったなと思います。ただ一つ、子育て支援センターの数がちょっと少ないと思うので、できたらもっと作ってほしいと思います。あと、児童館や、自治会でのイベントも、もっと宣伝して地域全体で子育てに協力しあえ、参加できたら素晴らしいと思います。
41	那覇市の療育センターのような、障害児を持つ親同志の交流や情報交換ができる場があるといいなと思います。
42	発達障害に対しての、保健師さんの意識向上をお願いします。
43	夫婦共に県外出身のため、保育所しか預けられませんが、今、第2子妊娠中ですが、2人目も同じ保育園に入れるか不安です。もっと子供と一緒にいるために育休を取りたくても入園のため復帰を早める状況です。子育ても仕事も安心して続けられるよう保育園の充実を望みます。
44	保育園→幼稚園→小学校までの流れの情報等が報告(伝達)されてない。行政に望むこと。縦割りの業務をするのではなく、横のつながりの業務であってほしい。もれのない様に報告伝達はされるべきであると思う。市民は行政の内容はあまり理解できていないので、支援の必要のある家庭に対してきちんと情報等を教えて欲しい。
45	保育園には満足していますが、学童の施設面で問題があると思います。上田小近くは、人数に対する部屋の広さが足りず落ち着かない。また、外遊びもしくは少々体を動かせる空間も低学年は必要だと思います。どろんこ学童のような施設があれば…。ぜひ学童の充実をよろしくお願いします。
46	保育園の入所制限で産前、産後～3ヶ月は短すぎると思います。子供が小さいと正社員で働いている方は少ないと思いますので、パートだとしても産休、育休が取得できないのが現実です。産後、仕事を探したいと思っても、子供の預ける先がないと、安心できません。(私もそれで苦労したので)もう少し、産前、産後の母子、父子の家庭状況を考えて欲しいです。お願いします。とても大変です。後は、地域で子供が楽しめる行事等があれば嬉しいです。医療費を後ほど請求するのではなく、初めから無料にして欲しいです。
47	保育園の先生方はとても一生懸命にとりくんでいただき、とてもありがたいと思っています。・市に対しては、他の市町村などと比べもう少し子育てしやすい環境を作っていただきたい。①検診・予防接種などは日曜日も施行してほしい。(特に予防接種は連続の一週間だと風邪などひくと次回になってしまう。那覇市などは一月かけて、日曜日に施行で子供の体調もみながら施行することができた。ぜひ考えていただきたい！②保育料が高い！働けば働くほど保育料に取られる感じ。働かずに家でみても同じかな・・・と思うこともある。育児休業をとっている間、片方の収入はないのに保育料は前年度の収入の計算のままなので、とてもじゃないが利用するのはむずかしい。

48	<p>保育料をもっと低くして欲しい。定期検診や予防接種のときに会場がとても混み合うので日程をもっと分散させるなどして対応して欲しい。乳幼児医療補助の申請がwebで出来るようにして欲しい。豊崎地区に幼稚園・小学校・中学校を建てて欲しい。</p>
49	<p>母子家庭への経済支援について、「児童扶養手当」や「保育料」など、母子家庭になる前の母親の収入にもとづいて支援・決定されるようですが、例えば夫婦共働きの家庭の場合、子供を父親の扶養にしているのがほとんどだと思います。その状況による収入で、母子家庭になった時の手当等の決定をするのはおかしくないですか？母子家庭になって、経済的にきびしくなっているのに、そうではない時の状況で判断するのは、本当に生活に困る人の為には、ならないのではないのでしょうか？強く改善をもとめます。</p>
50	<p>息子は発達障害を抱えていて、ふたば園に通園しています。このサービスには心から感謝しています。できれば、週に1～2回だけでも子供だけで通える様な保育サービスがあれば・・・と、願っています。(子供の年齢や程度にもよりますが)幼稚園や小学校に上がる時の事を考えると不安もあります。障害への理解を教育者はもちろん、保護者方にももっと広めて頂きたいです。市の熱心等、取り組みに感謝致します。</p>
51	<p>もっと身近にどういったサービスが受けられるのかを知る機会があつて、具体的に分つて、どういう方が利用しているなど、案内や情報があればもっと利用する方がいると思う。こんなにたくさんのサービスがあるとは知りませんでした。</p>
52	<p>幼稚園の終了後、以前は学童に預けていたが、就労による収入と学童代との支出が、あわない(1人ならいいが、2人は4～5年近く預けることになるので)←小3～4年まで預けるとしたら3人のうちいつも2人はいるという意味です。そのため働いても赤字になるなら昨年退職した。(私共は今年も引き続き幼稚園児がいる)学童(夏季は5万円近い)で2万円近く(1人あたり)かかっていたので、もっと安く利用できたらと思った。何年も学童に預けるつもりでいたので、比較的安い幼稚園の預かり保育は断念せざるを得なかった。市立幼稚園が昼食まであれば、祖父母などに頼むことはできた。昼食の世話の負担があつたので、学童を選んだ。(園が帰宅した2～3時間程度なら) 保育行政を充実することによって働きたいと就労率もあがり、市の財政などもよくなることだと思えるので、子育てしながら働ける環境づくりが、個人も市もうるおえるのではないのでしょうか？</p>
53	<p>幼稚園の登園時間、8時では遅い。せめて7:30から受け入れて欲しい、保育園同様7:00～19:00まで預かり保育(幼稚園でも)で保育時間の延長をして欲しい。市内で就労している人だけではないので、仕事の事を考えると小学校低学年までは、19:00頃まで預けられる場所を整備してもらいたい。保育料を支払っている以上、保育時間を充実して欲しい。</p>
54	<p>両親ともに県外出身やどちらかでも県外の場合、祖父母がなくなっている場合、いろんな面で預け先がなくて緊急の時に困る親は少なくありません。仕事をしながら休む間もなく家事育児をこなして、精神的にも体力的にも頑張り続けることがストレスになっています。豊見城市内でも子育てにもっと協力的に、そして愛情を持って皆に接することはとても大切だと思います。子供達に寂しい思いをさせないように親も楽しく子育てできる環境づくり、経済的にも仕事と育児の両立をもっと社会全体で働きやすい環境を作ってほしいです。働いているお母さん、専業主婦のお母さん、どちらも良いようにサポートしてもらえるお母さん同士の交流で解決していくのもいいと思います。ファミリーサポートも一度利用しようと思ったことがあります。それぞれのニーズに合った人の出会いも重要だと思います。</p>
55	<p>私事ですが、障害児をもっています。今度幼稚園へ上がるのですが、養護学校への希望も出しています。しかしながら午前中の就学なので午後預かりがありません。障害児対象としての預かっただけの学童保育のようなものがあれば、とても助かります。(もし養護への入園が決まれば入園を希望しています。)でも、預かっただけの学童がないと言う話なのでその点が困っています。</p>

56	県外出身の私は、地域子育て支援センターを利用し、とても助かりました。もう少し、支援センターの存在アピールをした方がいいと思います。知らなくて、とても苦労した県外出身者のお母様方が私の周りには多かったので。
57	仕事復帰に合わせてちゃんと希望する保育園に入園できるようにして欲しい。保育料が高いと思う。もっと保育事業へお金をかけて、家庭の負担料金を減らして欲しい。家庭の収入を見て保育料を決定するけど、実際の手取りの金額とはかなり違うので、手取りの金額で決めて欲しい。
58	子供が3人いますが両方が働いて生活がやっとです。又、子供が小さいと理由で、就職活動事、大変辛い思いをしました。(子供がいても土日祝日休みは難しい)なのに保育園は土日休みがほとんどです。子供が小さく、大変なのに土曜日、保育園に預ける際、あまり良い顔はされず戸惑います。毎日休み時間がありません。金銭面でも苦しいのに、子育て面でもすごく苦しいです。親が休むという時間は、今の時代、世間にはないのが当たり前になってると思います。役所で子育て相談の方は、現役子育て中のかたですか？そういう方が相談相手が良いと思います。共感があると相談しやすいです。
59	市立保育園のことですが、年末(12月28日～休み)・3月末(3月30日～31日)の休みが、共働きの私達にはとても負担です。
60	私は、人より多いのですが、(現在、第5子妊娠中)少子化少子化叫ぶ割には、一人っ子でも、五人兄弟でも、サービスが変わらないのには、不満です。子が多ければ多いほど大変なのはわかるはずなのにサービスへの充実がはかられていないのには、納得できません。他、市町村に比べて、豊見城の子供へに対するサービスはまだまだだとおもいます。(具体的には答えられないのですが……)
61	障害児(自閉症)保育の勉強会や、講演などの情報を教えて欲しい。子供を守るために勉強したい。子供との関りや療育について、何が一番良いか今何をしてあげればよいのか悩んでいます。仕事と育児の両立が、ゆとりの気持ちを持って出来るのか職場からどのくらい理解してもらえるのか不安です。
62	保育園の延長保育が豊見城市の場合、大半は19時までなので、もっとあずかる時間が延ばせないかと思う。19時以降も保育希望する人は少ないんでしょうか？

NO	小学生ニーズ調査の自由意見
1	2学期制に変わってから結果的に何が良くなったのか？ゆとり教育と言うが実際、学校現場としてなりたっているのか？今後、先生方に対する評価性が導入されるのか？低学年(1年～3年)のうちにしっかりとした教育(例えば授業中での子ども達の態度が悪い場合先生がしっかりと注意する等)指導を行うことが出来るかで4年～6時の授業態度等に影響すると思う。
2	ITをもっと活用し、情報提供だけではなく、子どもの行動を確認できるような事を市として考えてみてはいかがでしょうか？ 学校については特に意見はありませんが、過去に役所の教育委員会を訪問した際に職員の対応が全くできていませんでした。 誰が対応するのか、タライ廻しのような態度を市民の目の前でやっている職員(非常勤?)に不快感を感じました。 日常の業務でこのような状況で、市民の満足する行政が行えるとは思えないのですが…。 今回の計画も絵に描いたモチにならないよう足元も同時にしっかりしたものにしたい。
3	あちこち保育所を閉めるだけじゃなくて子ども達の事を考えるんだったら新たな保育所を考えた方がいい。仕事をしなくても子どもを預けられない。今は両親共働きじゃないと生活していけない人も多い。働きたくても働けない人も多いと思う。
4	育児支援センターを充実させるのは、県外出身者や乳幼児をもっている母親にとっては、すごく良いと思いますが、保育園に預けたい年齢になったとき、市の保育園はあきがなく認可外の保育園では、不安もあり預けられません。幼稚園の2年制度導入や保育園の充実を希望します。行政に対しては「お役所仕事だから…」と言う話を良く耳にします。役所の都合ではなく、利用者に立場に立ったお仕事をしたいと思っています。
5	いじめについて、どんな小さなことでも真剣に考えてほしい。裏サイトの存在をチェック出来るようにしないといけない。
6	伊良波小学校の登下校の安全面。ひと気が少ないため、子どもの登下校にはすごく心配である。
7	医療費の公費負担の拡大(せめて中学生まで)ファミリーサポートセンターの利用は子どもが小さいときに必要だと思います。小学生(小4)になるとほとんど利用しないと思います。
8	いろいろなサービスがあるのでしょうか？情報が伝わってきません。保育園など送迎支援サービスなど豊見城にもあるといいですね
9	上田小学校は児童が多すぎてゆとり教育は難しいと思う。
10	上田小校区ですが、年々児童数が増えているように思える。校区整理(調整)できないでしょうか？
11	上田小学校を早く分校にした方がいいと思う
12	うちの子に5年生がいるのですが先生の感情だけでガヤガヤ怒っていることが多いのが気になります。(同じ子ばかりを毎日のように怒っているとも聞きました)担任の先生でこの子達の一年間がどうなるのかがきまってくると思うと親として不安です。学校教育のアンケートがあってもその担任に渡すのでその先生が見るんじゃないかと思うと本当の気持ちは書けません！！先生の教育も必要だと思いますよ。
13	親の不在が多く、お金を持たされているなど、近所の友人などお互いが良い環境を与え合えるようなお付き合いができてくるのか、どこまで親が関与したら良いのか、迷ってしまうことがよくあります。子どもがだんだんと大きくなり、親の手が離れ始めると、また新しい悩みがでてきますね。親になるということはお互いが成長(子どもと一緒に)していくものだとつくづく感じます。

14	親は収入を得る為に必死で働いて子と向き合う時間も無く焦っています。なのに、必要以上に家庭での負担を増やしている様で納得できません。「教育委員会がこうだから、学校も従わないといけない」という体制が時に家庭での親子、家族団らんの時間を奪っている様な気がします。更に、PTA作業に関わる人達が家に子を置いて来て夜遅くまで作業をしたり学校に居たりするのはいかなものかと思います。
15	会社組織だけではなく、行政が育児休業制度を推進すれば、子どもを生みたい親が安心して休業できる環境になるのにと思う。
16	各学年の2クラスに1人ぐらい補佐の先生を付けて欲しいなと思います。45分の休み時間を短くして、子ども達がもっと早く帰れるようにして欲しいと思います。PTAの役員は父母にだけするのではなくて、近隣の方(若い方でも、お年寄りの方でも)にも協力してもらいたいなと思います。給食費が無料になったらいいなと思います。
17	各学校の近くに図書館や児童館があると良いと思う。・福祉サービス等について情報提供を積極的にわかりやすく伝えてもらいたい。
18	学童保育所の整備 学校の敷地内への設置を認めてほしい 子ども達の安全のため。
19	学童保育にかかる負担を軽減させる取り組みをしてほしい。子どもを生み育てる事はとてもお金がかかるので小学生、中学生等まで子どもを持つ家庭への支援をしてほしい。
20	学校からの帰宅時間が遅い。居残り→帰宅が遅くなる→宿題が多く→ゆっくりする時間が少ない→宿題を完了するまでに就寝時間が遅くなる。担任等により多少の量は異なりますが(宿題の)今年度は多すぎると感じた。
21	学校給食費の完全回収に力を入れてほしい
22	学校教育の現場にゆとりが見られない。ゆとり教育を推進し、2学期制にしながらも、先生方は相変わらず忙しそう、子どもとじっくり話も出来ないのでは…。事務員のカットや職員の減員は十分な次世代育成になるとは思えない。ファミリーサポートセンターの利用については、今後、子育てが(手が離れた頃)まかせて会員として協力してみたい。
23	学校周辺の安全面を強化してほしい。スクールゾーン等、朝の登校時にヒヤッとすることが多い。子ども達の交通安全の為、行政や市の職員、PTA、学校関係者でもっと積極的に安全パトロールや朝の登校時のたふりなど毎日やってほしいと思います。
24	学校での学習時間をもっと増やしてほしい。学習塾ではなくて身近なお友達と一緒に勉強する事があとで良い結果につながる様に思うから。また、親が学校のする事に口を出しすぎのように思います。他に、授業参観等も見学する親のマナーも悪いように感じる場面もあります。例えば小さい弟や妹さんをつれてきている方は授業中を見学しているので、小さいお子さんの行動には気を使ってほしいです。もっと先生達が指導しやすい環境を行政の方で作って頂きたいと思います。
25	学校の通学区域の緩和。老朽化した校舎の改築又は移転(プレハブの階段が滑りやすい)。信号機の設置。子育てに関する情報提供があまりにも少なすぎる。これでは子育て支援を応援している事にはならない気がする。週5日制になり、子ども達の学習が詰め込みになっている気がする。学習が遅れている子どもの対応(補修等)はどうなっているのか。又、一クラスの人数が多く先生たちの負担が増え、子ども達の状態を把握しにくいのでは？

26	学校の伸び伸びタイムをなくし、早く家に帰して欲しい。習い事の後宿題をしたり、家族との時間がなかなかとれないので困る。(変える時間が遅く、宿題の時間などで寝るのが遅くなる。)那覇市などは、伸び伸びタイムをなくして早く下校できるのに、子どもも家に帰って、遊んだり、家族と過ごす時間やゆとりがない。ゆとり教育と言う中で、時間のゆとりがない。
27	学校のトイレを和式から洋式に変えてほしい
28	学校、幼稚園の資質向上を望みます。(職員を含めて)・正規職員を増やして心から子どもの健やかな成長と安全を見守る力を持っていてほしいに接してほしい。
29	学校や市が主となり、漢字検定を受けさせて欲しい。那覇市の小学校では毎年行っているそうです。是非希望します。
30	学校用務員をおき、担任がより多くの子ども達と接する時間が取れる様にして欲しい。子どもの事を担任へ気軽に相談できるよう、連絡を取り合うとか、個人面談の回数を増やすとか、連絡ノートを活用するとか、担任の負担にならない程度に環境を整えて欲しい。
31	教師の評価をする制度を作してほしい。
32	行政に望むこと。豊見城市外から引っ越ししてきたのですが、放課後学童へ預ける環境はありながらも学童費が高額なのにビックリ。共働きの多い家庭のことも考慮し働きやすい子育て環境を他の市町村のプラス面をどんどん取り入れてほしいです。真玉橋地区の道路整備安全管理早急にお願いしたいです。税金を大事に使ってほしいです。(子育てのために・・・)
33	行政について子どもの通学等の整備拡張ができてほしい
34	行政を中心にさらなる連携をはかり児童生徒の生活習慣を徹底して見直して行くべきである。地域をあげて夜型社会を改善していくことで子ども達を守っていけるのではないのでしょうか。家庭でしっかりとしつけが行えるゆとりが出来れば必ず教育力や学力も向上するはずです。「子どもは宝です。」
35	去年まで学校での育児相談が気軽にできず困っていましたが、今年度より相談を申し込むことができ、〇〇先生が週に一度～月に数回など相談できるようになり、相談しやすくなった印象があります。カウンセラーの設置。
36	近所の友達とグループを決めて学校に行って欲しい。1人だと心配あり。歩いて20～25分学校までかかる為。夜間の外灯が少ないと思う。歩道の整備もあるといいと思います。
37	近年世の中は怖いことが多いです。放課後子どもが過ごす場所を充実してほしいと思います・子どもが安心して親が帰ってくるまですごせる場所があってほしいと思います。
38	クラブ活動で父母負担の軽減、親がフルタイムで働いていると子どものクラブ活動が制限される。迎えができないと参加させない。地域活動で働く親の軽減、下校時パトロール、朝の交通指導など負担。学校の教育活動に親の負担を求めすぎ。
39	県内で一番中学生の深夜徘徊が多いのは親の子どもへの関心が少ないからだと思う。自分の子どもだけを特別視して他人の子どもへの関心が薄いと感じる。学校のホームページ等を利用しようと思うが、更新されておらず全く役に立っていない(特に長嶺中)。用務員がいない為か？教師の負担が多いようで、本来の教育への活動がなされていないのではないのか？教員の負担が多い為にクラブ活動への取り組みが出来ていない。ほとんど外部やコーチや親に任せっきりになっている。

40	公民館など身近な施設を利用しての習い事や学習等の講座があったら良いと思います。特に夏休みなどの長期の休みには、子ども達の居場所があれば良いのにと感じます。
41	公民館を利用して学童保育的な感じで母親が帰宅する時間内(2~3時間)みもらえる環境作りができないものか地域でその地域の子も達を見守ることができればいいと思う。働いていない母親達を利用して(ボランティアではやらないと思うので手当てを出してあげて)交換性みたいな感じで出来れば理想だと思う。
42	個人的には「良く遊び良く学べ」が教育目標！！学校の休み時間でグラウンドに出て遊んでいい時間と出て遊んではいけない時間がある事にびっくりしました。休み時間が短いせいもあるかと思いますが、子どもは思いきり遊べば授業への取り組み方も少しずつ変わってくると思います。もっと遊びから得る事も大事にして欲しい。出来ることなら2学期制から3学期制に戻して欲しい。
43	子育て支援が利用しづらい事と、育児相談の充実。悩み、発育、食育など気軽に情報収集できる場所があればいいなと思います。母親が孤立しないこと、サポートや話相手や先輩ママとの交流があれば肩の力を抜いて子育てできるのになと思います。
44	子どもが4人もいて生活費は大変ですが子どもは宝ですので、一生懸命育てています。色々と医療費と支援等がありますが保険の利かないものだとすごく大変です。特にインフルエンザ予防の代金は大変です。行政の望むこととしてインフルエンザ予防接種の無料をお願いしたいと思います。
45	子どもが遊べるような環境を作してほしい。
46	子どもが多いわりに遊び場が少ない。駐車場や道路で遊んでいる子どもが多い。歩道がきちんと整備されてない。車も止まっている。1クラスの数が多い。一人一人に先生が目が届かないのか体調が悪くても連絡がない事が数回あった。
47	子どもが一人で歩いても安全な街作りしてほしい
48	子どもの医療費助成金を受給できる対象年齢をもっと上げてほしい
49	子どもの素行に関しての指導は積極的に行ってくれるのはありがたいのですが、精神的な面も、できればもっと指導して欲しい。例えばイジメ的なものとか最近の様子など・担任1人に対して20~30人の子ども全体を見る事は確かに困難だと思いますが、素行に関しては直ぐ連絡するのに別のことになると消極的になるのはどうかと思います。・街灯などの整備、ガードレール、大人からの呼びかけ等、子どもが関係する場所、施設等の周辺は防犯対策を強化して欲しい、又、ガードレール等も…。パトロールなど大人が目配りも、積極的に行って欲しい。
50	子どもを預けなくても済むように子どもの病気時や学校行事の時には仕事を休めるような制度をつくるべき。・病児保育や休日保育を充実させるには間違っていると思います。子どもに寄り添った制度を作してほしい。・2学期制は全くよくありません。3学期制に戻したほうがいいと思います。教師の側にも子ども達にもメリットがない。
51	最近学校では、子ども達に対して先生方の関わりがとても薄く声かけなどしっかりしていない。時々生徒が先生に話しかけても無視したり嫌な顔つきをする先生がみられショックでした。又、少し手のかかる子どもはあすなろ教室に誘導し子ども達の気持ちを傷つけたり、その事に対して親も子ども悩んでいる方がいると聞いていますが、何の対応もありません。形だけの支援ではなく声かけなどをの心こもった対応を希望します。
52	市営体育館を新設して欲しい。図書館を増やして欲しい。子どもの遊び場所を増やして欲しい。

53	市が行っている支援活動のパンフレットなどあるのでしょうか？配布していますか？どんな評価をつけたらよいか(問20)疑問でした。学校教育について先生の負担が多くなっている気がします。用務員やヘルパーを増員し先生方が子ども一人一人に目が配れる様、余裕を持って教育を行える様改善して欲しい。医療費負担を窓口(病院で支払う必要がないよう)請算を改善し、小6まで無料にして欲しい。放課後、子どもが安全に遊べる場所を増やして欲しい。公園や児童館など(安全にボールを使って遊べる場所がない)。
54	仕事をしたくても子どもを安心して預ける場所又は施設などが無い。豊見城市(特に)真玉橋から高安の方に関して特に少なすぎる。又、待機児童が多いためにもかかわらず、保育園等を閉園するのは絶対におかしい、間違っています。
55	自然と触れ合う授業を増やしてもいいかとおもいます。
56	自宅から真嘉部コミュニティがとても近いのですが、とよみ小の児童クラブが入っておりとよみ小の児童ばかりなので、入りづらい様子。遊び場がないので、コミュニティのグラウンドで思いっきり遊ばせたいのですが。
57	児童手当の一律支給を望みます。(所得上限ギリギリでひっかけり支給なし・・・この差は大きい、子どもにかかる費用は一律に支給してほしい)学童の整備(子ども達が大きくなってきたので今は利用してませんが以前は学童費も3人分と高く、学童場所も地域の公民館を借用するために交渉で大変な思いをしました。)
58	市内小学校に用務員配置を一日も早くしてほしい。特別支援を要する児童のための環境整備(人的)。不審者等のパトロール(安全、安心のまちづくり)・PTAのパトロールも仕事の都合で参加できない場合がある。(時間的な面で)
59	市民体育館がほしい・中央公民館周辺公園の整備・修復。・豊見城団地内に豊崎にじ公園の様な良い公園がほしい。
60	週休2日はいらないと思う。家族との時間が取れている家庭もあるかもしれませんが、毎日の宿題が多く休みの日にも十分に遊べない。宿題を多くだす先生がいるようです。クラブ等、スポーツをやっていると難しいと思いますよ。土日の休日が取れない家庭の場合、どこか子ども達が集まれる場所があったらと思います。
61	集団登校などあったらいいと思う。
62	就労している保護者が多いのに手続きがすべて窓口に行かないといけない。(例:乳幼児医療の払い戻し他)自由に休みが取れればよいが、手続きの為に仕事を休まないといけなかったりする人もいると思うので、郵送で出来る手続きは郵送でして欲しい。上田小学校に児童が集中していて、子どもの勉強環境が心配です。校区の見直しとか、市内であれば校区を越えて選択が出来ないのでしょうか。
63	障害児支援についてもっと力を入れるべき。ゆとり教育がゆとりじゃなくなっているのです、もっと考えてみては。
64	障害を持った子ども達にも、普通の子と同じ様に学校へ入園、入学出来る様にしてあげてください。養護学校をすぐ、進めるだけじゃなくて、他の方法も考えて欲しいです。
65	小学校高学年などに中学への進路の様子や学力の伸ばし方や生活面精神面の成長の為にもう少し情報があると目標が立てやすい。今自分が何をすべきか見えてくるのではないかと思います。

66	情報が入ってこない為どういうサービスが受けられるか、補助金等の制度が受けられない。知っている人だけが得をするのは不公平ではないでしょうか？役所の窓口のかたも不親切。知っているなら教えるべきでは？市会議員のかたに聞くといいろいろ教えてください。
67	女性が出産しても仕事ができる環境作りをきちんとして欲しい。子どもが気軽に相談出来る環境、メンタル面で学校に相談員を配置するのもいいかも。私のクラスの担任の先生は、色々生徒の事を見つめてすごく頑張っていると思います。教師も今の時代昔と変わって大変だと思います。よりよい教員育成の為、教育のメンタルケアも考えて欲しいと思います。
68	市立競技場、体育館、スポーツ施設、公園などの整備が遅れていると思います。学童保育施設の充実もお願いしたいです。
69	先生方の指導や考え方にばらつきがある様に思います。学年担任に向いていない先生や相談しても聞き入れる耳を持たない先生もいるように思います。特に一学年の担任などは配慮してもらいたいです。
70	先生の数をもっと増し、1クラスに2人ぐらいで子ども達を見る。・おちこぼれをなくし、全員が授業を楽しめる授業を目指して欲しい。・勉強だけでなく、命の大切さ、又、薬物の恐ろしさ、タバコなどの講演会を増やしてほしい。・電話での対応がとても悪い。・各職員の話がまちまちでどれが本当なのか分かりません。
71	相談しても支援する側の専門的な人材が不足しているため、対応できないことが多いと感じる。(言葉の教室など...)結局、返答もないままに流される。子ども達の放課後活動について、地域によっては、学童クラブや児童館が充実しているが、豊小校区は学童以外の支援がない。学童クラブは年契約で、必要時のみの利用ができないので不便を感じる。学童の保育料も高い。下に保育園児がいるので夏休み中は兄弟合わせて保育料だけでトータル5~6万円かかり負担大きい
72	地域(自治会)公民館を開放しての子育てサークル等の実施。自治会公民館を拠点とした活動は、同世代の子育て親の情報交換として、また子育て終えた年配方からのアドバイスや一時預かりなどの活動をし、地域の子どもは地域の皆で子育てする。(非行防止や虐待防止には非常に効果的だと思う) 保育所待機児童の解消。 認可だけの補助金支援でなく無認可でも設備充実できる補助を行ってほしい。(認可は十分な支援があり差がありすぎる) 認可に申込みしたが定員超過で入所できず、やむなく無認可へ入所したが、恩恵に差がありすぎる。 住み良いとみぐすくの為、今後の行政施策に期待しています。
73	地域の集会所などを利用して、気軽に入出入りできるコミュニティーの場などがあるといいですね。勉強机や本、小さい子の遊び場(小さい子は必ず親同伴で)など。その際、地域の高齢者など交代で誰かが(大人が)その場にいると安心です。地域の方とのふれあいにもなると思います。・保育園(認可園)の土曜日の家庭保育を強くすすめるのはやめてほしいです。仕事の親はたくさんいます!
74	豊見城市は学校が遠くほとんど送迎をしています、どうしても送迎が出来ない場合は歩いて来ます。特に冬の帰宅は暗い為、道路(特に農道)に街灯等を設置してほしいです。本当は、スクールバスがあればとても助かります。
75	豊見城小学校に通っていますが、放課後児童館等の天気が悪い日や夏休み等、学童クラブに入っていない子ども達が安心して過ごせる場所があればと思っています。早めの実現してほしいと思います。
76	豊見城市には他の市町村からの住民も多く、子ども会や地域の行事などに参加できずいやな思いをする子も多い。公民館(中央)を利用したく何度も足を運び、書類など提出したが「あれがたりない...」「あれもない」とかで職員も内容がわからず人間が多い。とよさきも良いのですが、各地域に子ども達がおもいっきり遊べる官庁を作ってほしいです。

77	土曜日学校があった昔の子どもの方がゆとりがあって楽しかったと思う。土曜日に学校が休みでも、子ども達だけで安心して遊べる時代ではないし、そのために始業式や終業式にまで授業があるのもどうかと思う。
78	友達の子どもが知的障害の検査を受けた話を聞いて思ったことですが、できれば各小学校(幼稚園)に療育専門の先生を入れていただけるとありがたいなと思いました。障害を持つ親も安心できる学校教育をよろしく願います。
79	部落意識が強すぎて子ども会にも入会させてもらえない状況でした。ラジオ体操など本当は色々な経験を子ども達にして欲しかったのですがあきらめています。先生は年度ごとに変わりますし、相談するのも・・・と思い我慢しています。子どもの権利はまずは部落での差別、格差を無くしコミュニケーションのとれる地域づくりをしていただきたいと思います。それには市役所の方の協力なしでは良い方向にむかわないと思います。どうか御考慮ください。
80	保育料の改善・保育所の増設・待機児童の改善・児童館が近くにない地域は公民館などを利用して子育て支援をしてほしい。児童館の近くに住んでいる人だけが利用できるのは不公平だと思います。子どもの足で歩いて行ける距離に、児童館と同じ役目の施設を展開すると、市民全体のサービスとして行政側が歩みよる姿勢が欲しいです。
81	放課後に学校近くの学童保育に通うのもいいけど、長嶺小のように各学校内に学童施設があると一番いいと思います。現在学童保育所を利用していない人でも学校内に学童があれば、急用が出た時に親族にも預けられない場合もあるし誰かしら利用すると思います。保育所も閉所される所もあり仕事したくても子どもをあずけられない。待機児童が多くてかわいそうです。
82	放課後の遊ぶ時間が短い。学校や地域でも子ども達の遊ぶ姿がほとんど見られません。学校からもっと早く帰ることができるような環境(教育課程)が必要だと思います。また、スポーツ活動(クラブ)や習い事などしていると帰宅は遅くなり宿題や入浴、食事等を済ませて就寝までに家庭で親子で過ごす時間はわずかです。子ども達が学校から早く帰って来ることが出来て、外遊びがたっぷり出来てまた早めにスポーツ活動や習い事に行くことが出来てゆとりをもって家庭で家族の時間を持つことができないものか・・・と思います。毎日時間に追われているという感じで時々へとへとになります。母子家庭なので、なおさらです。
83	物にあふれた世の中で、物に対する気持ちが少し足りないと思いました。人に対しても感謝の気持ちが見えてこない。自分の思っていることを素直に言えない子が増えた気がします。親も学校もですが、「安全・安心」を重視してますが、相手を思いやる気持ちがあれば、安全安心に繋がるのでは？子ども達に、人を思う心や感謝できる心を育てる教育をしていきたいです。
84	豊崎に住んでいますが、下校時に時間通りに授業が終わらずにスクールバスに乗り遅れて1人で帰ってきたということを最近よく耳にします。バスに乗り遅れることがないように、時間通りに授業を終わらせて欲しいです。
85	両親が共働きで小学生の放課後の安全について不安があります。小学校の敷地内に学童保育の施設があると安心です。長嶺小学校のような学童施設をとよみ小学校にも是非建てて欲しいと思います。
86	ワーク・ライフバランスの推進を事業所、又、街でのボランティア推進を是非行って下さい。サポートしてくれる親、親戚等が近くにおらず大変困っており年休を使って育児をしている現状に対し、市・行政はもっと判って欲しいです。

87

私の子どもは、発達障害です。現在、とよみ小学校へ在学中ですが、小学校では現在、どのように支援をしているのか、あまり、具体的ではありません。巡回指導員もどなたがされているのか、情報がまったくなく、個別指導計画もお願いしているのですが、なかなか出来上がらない状況です。支援が必要な子なので、担任に申告をしたのですが、なかなか動けないようです。支援を必要とする子ども達が、特別支援という枠の中できちんと支援を受けれる事が、普通の子ども達の学力のレベルアップにもつながると思っています。学校教育の中にもティチャーズトレーニングをどんどんいれてほしいです。そして行政に望むことは、次世代をしょって立つ子ども達の環境整備のために、ぜひ、子育て宣伝をする市になって欲しいと願ってやまないです。

5 市民ワークショップ結果の概要

【子育て支援環境づくり】

分類	第1回ワークショップ意見
保育所(園)	<ul style="list-style-type: none"> ● 出産を終え、いざ仕事を始めようとしても子どもを預ける所がない。預かり保育も希望者全員が利用できるものではない。 ● 保育所等(保育施設)の延長保育が充分でない。 ● 産休(育休)明けの入所基準の緩和。 ● 子どもがいると、ちょっとした用事が大変。銀行に行ってお金を下ろしたり、美容室に行ったり、買い物(子どもの洋服など)をしたりなど2~3時間くらい預かってくれるサービスがあると子育てしやすくなると思います。 ● 私は今、子どもを一時保育に預けていますが、豊見城市内の保育園では預かるところがなく(電話をしても断られる)。豊見城に住んでいるのに那覇市の保育園を市外料金(1日1700円)で利用している現状です。
子育てに対する意識	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもができたら仕事を辞めざるを得ないのが現状。子育ては女性がやるものという社会意識。
子育て支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在、支援センターを利用しています。慣れた所で短時間(2~3時間)、子どもを預かる仕組みがあつたらいいと思います。 ● 認可保育所での支援センター設置の増加。
地域でのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● 私の住んでいる地域は名嘉地ですが、どんな人が地域に住んでいるのかが分からず、地域とのコミュニケーションがないので子育て世帯は孤立しているというのが問題だと思います。 ● 核家族化や地域外からきた方は、近くに子どもを預かってくれる親戚がいない。地域力の低下。
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼稚園のあり方。他市町では、2年保育や時間延長がありますが、豊見城では現状が変わらないのでしょうか。
児童館	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童館や託児所等の整備が充実していない。
放課後の過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校の放課後の児童の過ごし方。学童に入っていない子の放課後の行き場所は、しっかりしていないように感じる。「たむろ」している子に注意しても「じゃあどうすれば良いか」という問いに対して答えが出ない。
幼児教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼児教育について。12時までの活動では、かえって子どもが遊びや教育に集中できないのではないかと。時間帯について考え直して欲しい。
子育てに関する相談	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育ての不安を安心して相談できる環境作り。広報(プライバシー保持等)。
子育て家庭に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 家で親子が一緒にいて、なかなか外に出せない(孤立している)。どう支援すればよいか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 親子通園事業の実施。

【親と子の健康づくり】

分類	第1回ワークショップ意見
栄養、食生活	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事も給食のみで駄目です。
地域における子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域での子どもへの関わりを充実するためには、どうすればよいか。 ● 育児ノイローゼやネグレクトの発見が早めに行えるためには(対象者の親は外に出ないため確認ができない)。 ● 地域の人が地域の子どもの名前が言えると住みやすい環境になるのでは。
職場環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが病気の際は気兼ねなく職場を休める状況をつくる(夜中看病をしている)。 ● 子育て中の母親(低学年まで)は、できれば6時間勤務位にして欲しい。
親と子どもの健康支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 就寝時間の徹底。 ● 夜遅くまで出歩く(スーパー等)。 ● 早寝、早起き、朝ご飯。 ● 子どものいる妊婦へのヘルプ。
登下校の支援	<ul style="list-style-type: none"> ● スクールバスがあるといいな。子どもが安全に登下校できる。他に福祉とかにも利用できる。 ● 通学バスをなぜ運行しないのですか(小～中まで全て)。CO2 問題と費用等。 ● 子どもを送るのは子どもの発達に問題。
子育て中の親に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 母親がゆとりを持って育児ができるための関わり方(両親の子育てへの勉強会等があればいいですね)。 ● 完全な親はいないと思う。この視点を忘れずに支援を考えたい。
親を育てる、知識を受け継ぐ	<ul style="list-style-type: none"> ● 親になるための力を育てる。体験する機会(赤ちゃんだっこ、家事)をたくさん持てたらいいな。 ● 親の子育ての知恵が伝承されない。 ● 自分(親)が育ってきた環境を子どもに引き継ぐ(子が親になる時に、健全な肉体、精神を持つことが出来ているのか考えてあげる)。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 親子の関係が作られる、0～2歳までは家でみたいのが本音。でも経済面、社会からおいていかれる感じ、復帰への不安がある。 ● 親とは子に対しどうあるべきか。 ● 子どもの楽しみが少ない事も問題です(予算が問題ですが)。 ● 沖縄県内の子どもの教育方法を考えたい。

【安全と利便性のまちづくり】

分類	第1回ワークショップ意見
遊びの場	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちにとっての安全と遊び場の両立。 ● 老人と子どもが遊べる場所づくり。 ● 安全に遊べる公園の整備。 ● 上田小学校地域の子どもの居場所がなく、安全な遊び場の確保。
地域ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● ハード面だけでなく地域のつながり、人材活用によるソフト面の取組も重要だと思う。 ● 豊見城に住んでいる人々の技を上手く活用してネットワークを作る。 ● 児童館。地域の人々との交流。ネットワーク。
道路及び歩道の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路と歩道をきちんと分けると安全になるね。 ● 座安小学校前の歩道、改善が必要ではないか。
世代間の交流、支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 老人クラブの先輩方を子どもの育成支援にお願いする。 ● ゲートボールも良いけれど子どもと一緒に花いっぱい運動をしていくのもありかも。 ● 安全な遊びの「場」を作り、提供するために児童館のような施設を増やす。
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 年齢を超えてのボランティアの参加があればいい。
危険箇所の調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の危険箇所を調査(道路、橋、川、公園等)。
公園や広場	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園の遊具等の点検。 ● 地域の広場の整備。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童が音楽活動ができる場が欲しい。 ● 子ども達は何かを必要としているの。 ● 瀬長島を活用して豊見城の歴史等にふれる。安全な瀬長島を子どもの育成に役立てられるのではないか。 ● 瀬長島の有効活用。文化発祥の地として、自然を生かした学習の地として活用する。

【保育及び教育環境づくり】

分類	第1回ワークショップ意見
保育及び教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 1年を通して入園希望の問い合わせがある。受け入れ保育施設が少ないのかな。 ● 児童・生徒にとって学校は生活の大半を過ごす場所です。そこは人間としての人格等を育む大切な場所です。学校現場での教育環境というものを今一度見直す必要があるのでは。 ● 保育園には無認可・認可、公共・法人となるが保育環境はどのように違うのか。 ● 市内の子育て支援センターの数(割合)は、他市と比較して多い？少ない？ ● 保育士の最低基準を見直し、ゆとりのある保育ができるようにして欲しい。11時間開所で7時15分から10時までの出勤体制。登園・降園時間帯の保育が厳しい。 ● 学校における「青色パトロール」の現状について。
相談体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの育ちに不安を感じた時の相談窓口の紹介に困ってしまった。もっと情報が欲しい。
情報提供体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園がどこにあるのか。マップを見て昨年、今年と建設中との表示。利用できるまでどれくらいかかるのか。
子育てに関するPR	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てに最適な豊見城市キャンペーンの強化。
子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境がつくり出した障がい児(者)。育つときの食事、学ぶ時の家庭教育。 ● 安心・安全に子どもが育つ工夫(人生の先輩方に学ぶ機会を多く持つ)。 ● 昔は、親が仕事や用事の時には、おじいちゃん・おばあちゃんに預ける機会が多くあったと思うが、現在はそういうことは少なくなっているように思える。
仕事と子育ての両立	<ul style="list-style-type: none"> ● ずっと働きながら子育てをしていく上で大切な母親の心の持ち方について学ぶ機会を多くして欲しい。
地域における支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティー・ワーカー(地域支援員)の養成が必要。 ● 地域の親同士の関わりがあまりない。 ● 子ども達と地域のつながりがあまりない気がします。 ● 豊見城は真嘉部コミュニティー等を見ると、割と子育て支援について頑張っているのだなと思いました。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然をいかした遊びを今の子ども達はあまりしていないと思う。 ● 市内の公園の整備状況は。安心して遊べる公園って何処に、どれくらいあるの。 ● 子どもが外で遊ばなくなったのは、ゲーム機とかで家でしか遊ばなくなったといわれているが、それだけが理由なのか。 ● 小学校の遊具が少ないと思われるので設置して欲しい。
市民との協働による取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 市全体でまちづくりを推進するため年1回全市民で清掃をする。 ● 教育予算を削って何の環境整備か。まず予算の獲得を(市民に頼るにも限度がある)。

分類	第1回ワークショップ意見
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育、教育現場でのボランティアの活用(シニアクラブ等)。
放課後の過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> ● 親が就労中の児童の放課後の過ごし方に疑問を持つ。①祖父母を頼る。②鍵っ子にする。③学童保育に入れる。 ● 親が就労中の児童の放課後の過ごし方に疑問を持つ。①頼れる人にも問題がある。②最悪の環境である。③金銭的な問題で入れることが出来ない人もいる。以上の事から放課後の過ごし方の環境整備が必要と思われる。 ● 下校時の児童の行き場、学童保育等は充実しているのか。
現代の子どもたちの姿	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分は私生活では、子どもと関わる機会がほぼ皆無である。ただ業務で子ども達を相手にしたときに個人的に感じる事がある。自分たちの子どもだった頃と比べて、素直な子供が減って、人の話をあまり聞かない子どもが増えてきたように感じる。 ● 子どもの運動能力の低下。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 最近、若い人達に限らず信号無視等の交通ルール違反が多く見られ、それを子ども達が見て真似するのではないかと心配しています。交通ルールに限らずマナー全般。 ● 琉神マブヤーをもっと豊見城とセットで発信してほしい。 ● ビーチを早く整備して若者を集める。 ● 子どもを増やすため市の男女を対象にお見合いパーティーをさせる。 ● プロチームを誘致して欲しい(野球、サッカー、バスケット、バレー、キャンプ等) ● 市立体育館を作って欲しい。 ● とよみ小学校前に信号機を。 ● 東部にもっと公園整備を。 ● 東部地域の道路整備(安心して歩ける道)。

子育て支援の環境づくり

子ども自身の相談場所を作る

- ・子育て相談って悩んでるのは親？子？子供はどこで解決してる？
- ・子供が相談したく学校や相談室へ行くが不在で結局は相談出来ず、子供自身で解決出来るような場があればよい。
- ・虐待児の早期発見、支援。(親の認識)(一般の人達の虐待のとらえ方)→通報へのためらい
- ・地域のつながりが薄れ、近くにどんな人が住んでいるのかわからなくなると、泣き声や怒鳴り声が聞こえて不安になる。
- ・隣と虐待の区別。悪い事をした場合、同じ日線。どうして？理由を聞いて怒る。2回目、口頭で。3回目、約束だから叩く。(利き手の逆の手)
- ・子供の相談室みたいなところがあるのか？
- ・子供が親に相談しにくい事や学校へ気兼ねして相談出来ない時、地域で相談出来る場があればよい。
- ・子供の本音に耳をかかむけていない大人が多くなった。
- ・子供の権利擁護について、子供らしい過ごし方、塾などで遊ぶ時間が少なくなかった。母親に心の余裕(ゆとり)がなくなると虐待が起こりやすい。経済的、精神的。
- ・特に乳幼児期は大切。1〜2時間でも母親のリフレッシュする時間がほしい。
- ・子供の生活リズム。
- ・子供の遊び場の保障。

虐待をなくすために

家庭におけるコミュニケーション

- ・子供が親に相談しやすい関係づくり。家での会話、食事。
- ・親子の団らんの時間を持つ事によって、困った時に話し合える関係づくり。
- ・親の悩みが話し合える場づくり(虐待防止)
- ・同世代の子を持つ親が気軽に集える場づくり。

情報提供の場

- ・子育て支援サークルをもっと知ってもらう為に横とつながりをもっと広くしてほしい。(産婦人科等)
- ・子育て支援の場があればいい。3か月健診とか早いうちから。
- ・子育て支援サークルに入るには初めの一歩を歩きやすくする為に産婦人科の窓口で周知させたい。

父さんばもつと大変!

- ・ママ友の集まりはよく聞くとパパ友の集まりは聞かない。父親が子育てに関わろうとした時、相談出来る人がいないのでは。女性だけの中心に男性はなかなか入りづらい。

地域の希薄化

- ・地域内交流の希薄化。
- ・子育て相談、情報提供について。核家族化による情報不足。
- ・共働き夫婦による子育て、近くに祖父母がいない、情報不足。

個人情報保護法？で子供は放課後、友達と連絡も取れないよ。

- ・連絡網が無い為、連絡がとれず一緒に遊びたくても遊べない。(遊ぶ約束をしていながら用事で遊べなくなり連絡がつかない為、翌日、仲が悪くなる)

地域の情報不足

- ・「とみぐすく」の広報のように子供中心とした広報があり、豊見城市の遊び場や施設の紹介等あればいいと思う。
- ・広報紙のように2〜3ヶ月に1度でも子供(子育て)中心の情報誌、公園や授乳室が設置した場所。
- ・定期的に情報(公園、遊び場等)を出してくれたい。市外から越してきたので豊見城のことがあまり分からないので。
- ・安心して預けられる場所。
- ・地域外から来たので子育ての情報等が取りづらい。
- ・保育所、小中学校の状況が分からない。
- ・保育所、小中高校、部活の紹介など。マップも最新の情報(更新)。
- ・保育園、幼稚園を探す時に親はとても苦労している。
- ・親の勉強会、講演会などへの参加。
- ・詳しい情報。
- ・コーデイネーターがいたら希望の園に入れる。
- ・親が学習するための時間の保障。食育や発達支援のため。

仕事をす親の支援

- ・仕事と子育ての両立。
- ・乳児医療の手続き。他府県では病院の窓口で手続きができる。
- ・仕事と家庭との両立。
- ・仕事の安定。

ひとり親の支援

- ・一人親をサポートできる体制づくりが必要なのは？
- ・一人親の優先雇用を。
- ・ボランティア等(学生)による子育て支援、ファミリーサポートセンターの無料化(対象者に対し)
- ・経済支援、ひとり親支援等。
- ・就業支援(経済的保障)

障がいのある子の支援

- ・障害のある子への連携のとれた支援。
- ・育てにくい子への支援。
- ・親子通園→幼稚園のつながり。
- ・障害をもっている子と外出が困難。
- ・発達の子の早期支援。

地域の理解

- ・障害のある児童への対応。大人が障害のある児童に対し区別しすぎる意識傾向がある。
- ・障害のある子を地域の人達が理解できるようにするには？
- ・地域の人達が良い所を見つけて伸ばして上げる。※心身に障害のある子には音楽や絵画をさせてみる等。

- ・子供にお金がかかると。教育費
- ・親の経済状況で教育費にかかる格差が生じ差別的になるのでは。

地域における障がい者の理解と支援 障がいを持って方が地域に出て行けない

障がいの理解

- ・障がい者（児）に対する理解が足りないため閉鎖的になっている。障がいの理解不足→孤立。
- ・背景→障がい者（児）と接したいと思うが接し方がわからない。
- ・障がい児保育をとおして乳幼児期から交流→障がい者がいて当たり前という考え方ができる。
- ・障がい者も巻き込んだ地域活動やイベント。
- ・障がい者（ひまわりファクトリー）のパン販売→地域へ出る。間近に働いている姿を見たり接したりする事で理解していく。
- ・障がい者との交流（理解を深める）

体験活動

- ・車イス・アイマスク（解決策）・障がい児についての勉強会。
- ・地域の方対象にして大人が理解し子供に教える。
- ・地域理解につながる。

まちづくり

- ・障がい者が地域に出る為の環境を整っていない。地域参加がしづらい。
- ・地域の人々の理解不足。
- ・ハード面（道路、トイレ等）の問題。
- ・近所の人たちの理解不足（虐待と解釈された、地域との関わりが不足）
- ・バリアフリーの建築物が少ない。道路も同じ。（障がい者）
- ・地域住民への意識啓発。講演会、映画上映、パネル展等。
- ・障がい者がもつと外へ出歩けるように道路の整備や建築物のバリアフリー化をする。（解決策）

街のバリアフリー化

親への支援

- ・発達障がいの子どもを持つ親の支援。（背景）発達障害を認めたくない親も多いので障害の理解を深めることが重要。
- ・受け入れる施設（保育所、幼稚園）で環境が整っていない。
- ・早期支援。健診後（現在カンガルー教室。）

障がいへのサポート

- ・障がい者（児）をサポートする人が少ない。
- ・障がいを持っている家族へのケアをどうするか。
- ・学校現場において障がいの有る子をケアのできる専門的知識を持った人が少ない。
- ・学校でも障がい児を積極的に受け入れる。
- ・人材確保を行う。（学校教育支援）

療育センター

子供の育ちの保障

働きたい、働いている親への支援

子育てと仕事を両立できる社会

- ・父親も育児休暇がとれるような社会。→（背景）父親は休む事で会社からの信頼がなくなる。
- ・子供が病気の時、仕事を抜け出して迎えることが難しい。→（背景）職場の理解が得にくい。
- ・やりたい仕事をさがせない。→（背景）子どもがいて休まざるを得ない。（解決策）
- ・職場に保育施設が少なすぎる。男性もいるので、あると社会が理解しやすい前になると思う。あるのが当たり前になっている。
- （解決策）
- ・21世紀職業財団等の両立支援事業の活用。
- ・企業への支援、男性の育児休業、職場内保育施設、再就職セミナー。
- ・男性の育児参加等を援助している企業の表彰される現在。→補助金が受けられると多くの企業で取り組む？
- ・ファミリーサポート、ひとり親家庭を無料にする。
- ・職安（ハローワーク）での一時保育。

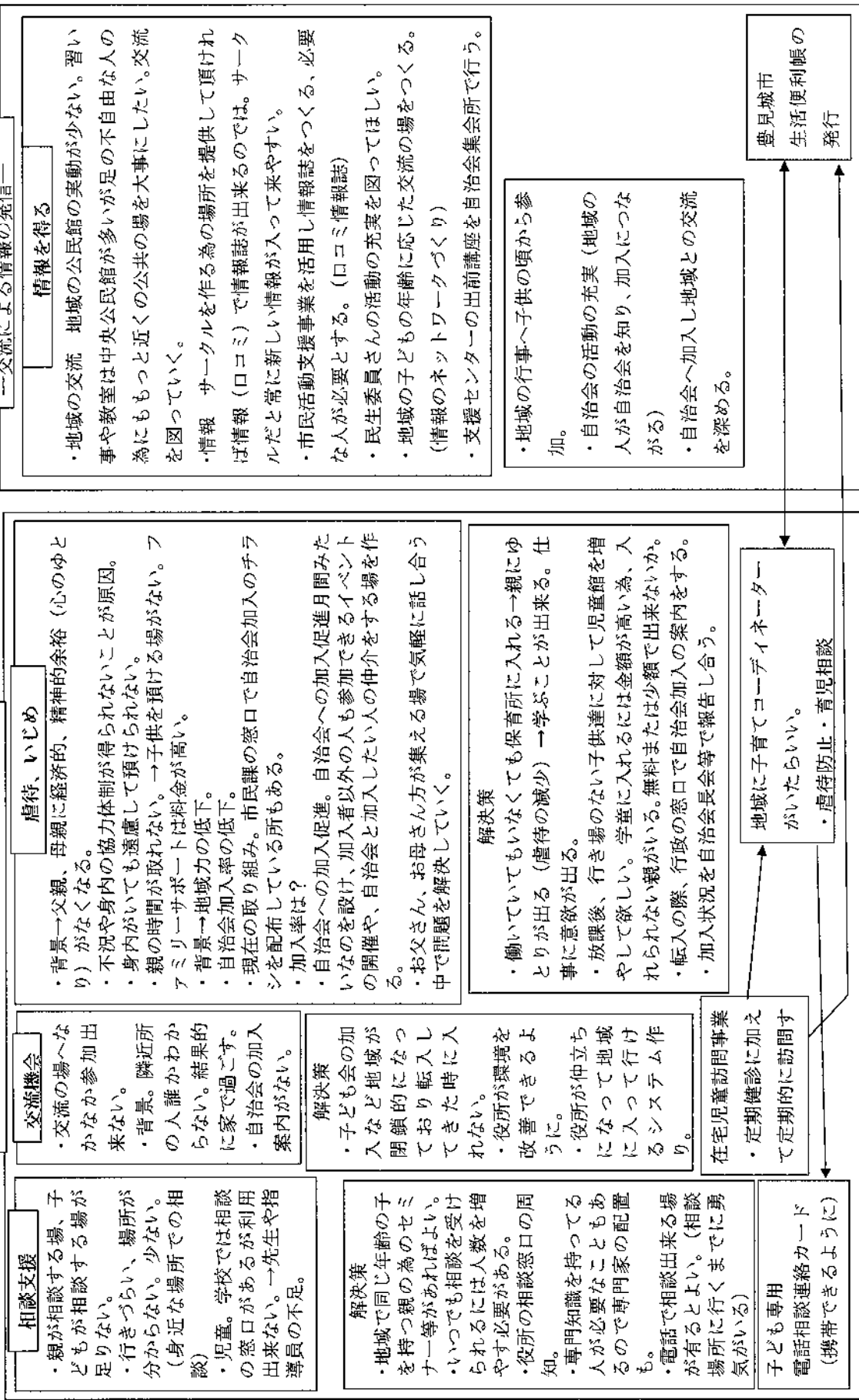
保育サービスの充実

- ・保育園が決まらなないと仕事を探せない。意欲も低くなる。
- ・保育園が足りない。（なかなか入れない）
- ・保育所入所の基準を変える。現在、働いていない親は入れない。待機児童が多くて入れない。
- ・仕事を探すまでの間、子供を預ける場所が必要→（背景）子連れでは仕事を探せない。
- ・認定子ども園があればよい。働いていなくても入所できる。
- ・（解決策）幼稚園の在り方。時間帯や内容の見直し。
- ・保育所への受け入れ条件を見直してほしい。（ならし保育期間の受け入れ）
- ・幼稚園の2年保育。（預かり保育）
- ・保育所の低年齢児受け入れ枠を広げる。

子育て応援チケットの発行（在宅育児対象）

- ・月5回あったらいいなあ。

Aグループ No. 3



地域の活性化

・親子通園事業として、バス会社と相談して幼稚園、児童館に全ての住民が通園出来るGPSを利用したマップを作り通園出来る用にする。帰りも利用する。

- ・図書館を拡大(数量も含む)して、放課後、通園バスにより行動させる。バスと各停留所は無線通信出来る方法がある。
- ・結果として支援センター等の不足があると思います。
- ・地域の子供会の活発化。
- ・県外、市外出身で身近に相談相手がいらない。
- ・相談する人が身近にいる。
- ・公民館は楽しいことをする場所ではなくなくなった。
- ・保育園、同アパート内でも最低限のあいさつを繰り返していれば顔見知りとなつて何かが変わるかも。
- ・インフルエンザの伝染病時、保育園が閉鎖された時、子どもの預け先、及び職場の理解(休むことへの)
- ・親たちが気遣い集まれる場所(子どもが楽しめる場所)
- ・核家族のため孤立して外部との関わりが少くない。
- ・アパートが多い→コミュニケーション低下
- ・孤立化。
- ・地域に人を引っ張る。
- ・子どもの遊び場がない。
- ・妊婦、子どもの喫煙を注意できない。
- ・中高校生の継続喫煙率が高い。→防止する為に熱中できるものを作る。→居場所作り(エイサーなど)

会話のある近所

地域育て

親育て(子育て)

・兄弟が多いと予防接種や乳児健診を受けにくい親が多い。
 ・性教育、いのちの大切さ。
 ・子育てに関する考え方に疑問。
 ・言葉遣いが気になる。親子で同等なしゃべりをする。
 ・現在、小学高学年、中学生のタバコがやめられない子が増えている。
 ・妊婦健診をうけないままに出産。
 ・若年(20歳未満)の親を抱えている問題。
 ・子供を連れてくるのにタバコを吸っている親。
 ・居酒屋に子供を連れてくる親は、いかなるものか。
 ・注意出来ない周囲の人間。
 ・子供を連れてくる居酒屋へ行く母親への教育。
 ・子供を保育所まかせでいいのか?

子育てのゆとり
 ・母親がゆとりを持つ為に乳児の時期の関わり方。
 ・お父さんが子育てに関わらない。
 ・時間の余裕がない。

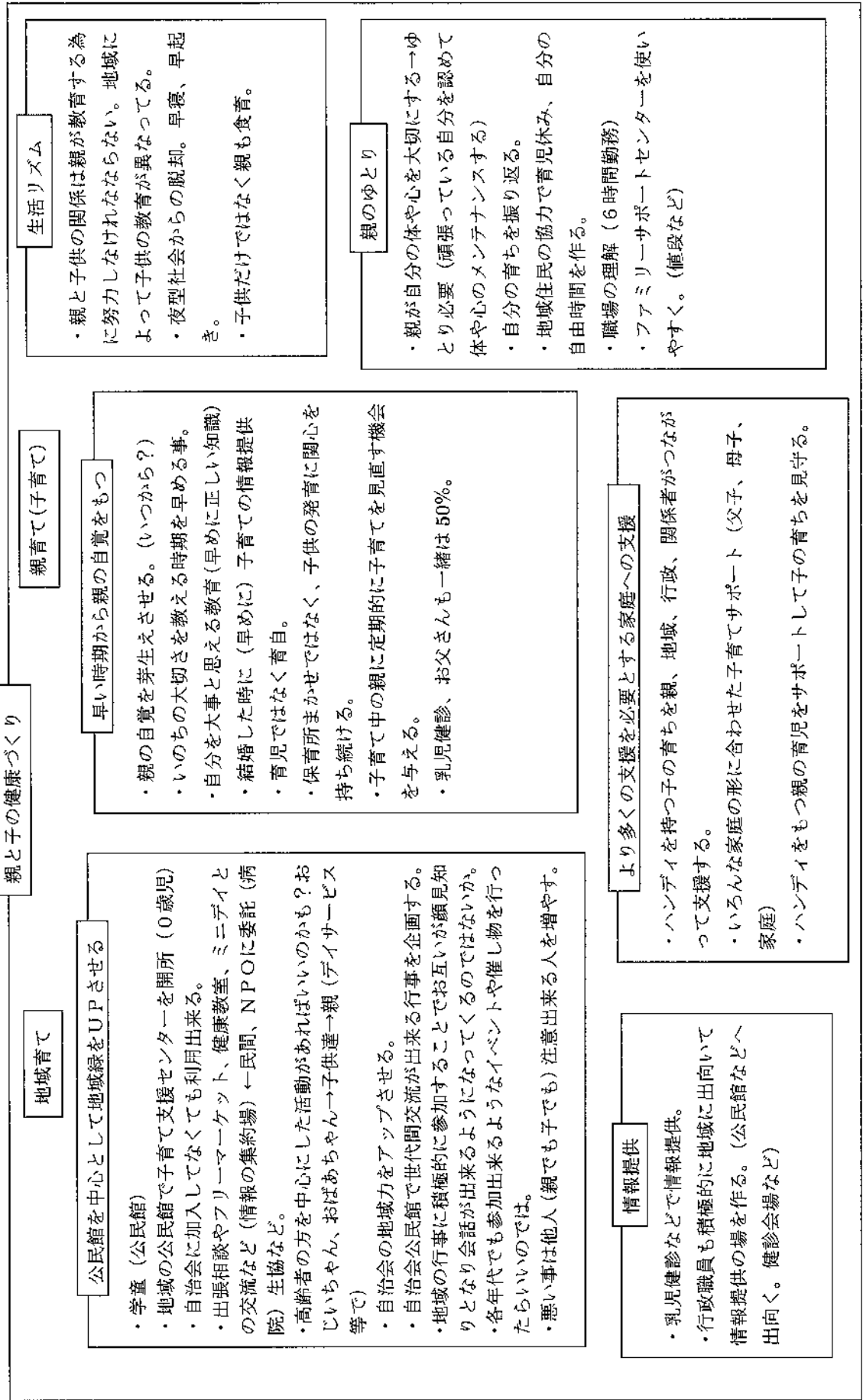
生活リズム

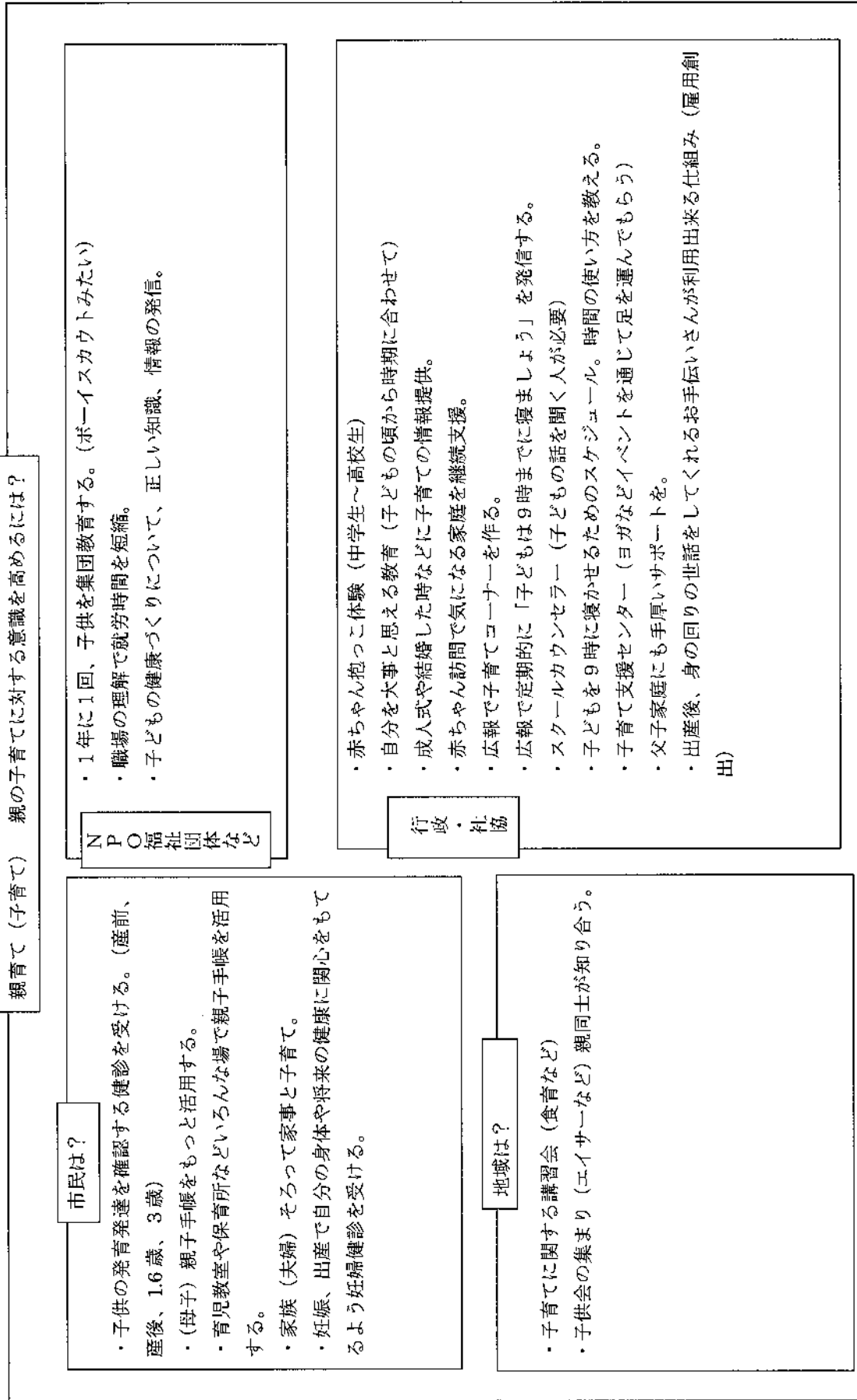
- ・規則正しい生活。(9時就寝)
- ・郷土食の継承(食育)
- ・朝ご飯を食べない親は子供にも朝ご飯を与えずに学校へ送り出す。
- ・大型スーパー等のフードコートで夜9時過ぎに食事をしてる家族を見た。食べない(与えない)よりはいいのか?
- ・子供を連れ歩く時に菓子袋やキャンディー(ペロペロ)を与えている親が多く虫歯のリスクが高い。治療にも行かない親が多い。

情報発信の方法(インターネットの活用)

- ・リサイクルを共有する。
- ・相談窓口がわからない。
- ・子育て支援センターなど行きづらい。
- ・各年齢層が集える場。
- ・乳児健診で仲間づくり。
- ・インターネットを活用した情報交換。
- ・保育所は足りている?
- ・楽しい広場
- ・6割核家族。
- ・話し相手がいらない。

仲間作りができる情報提供





地域育て 公民館をみんなの集まる場にするには？

市民は？

- ・地域に関心をもって行事に参加する。
- ・地域の情報にアンテナを張る。関心を持つ。
- ・地域に顔見知りをつくる。

NPO福祉団体

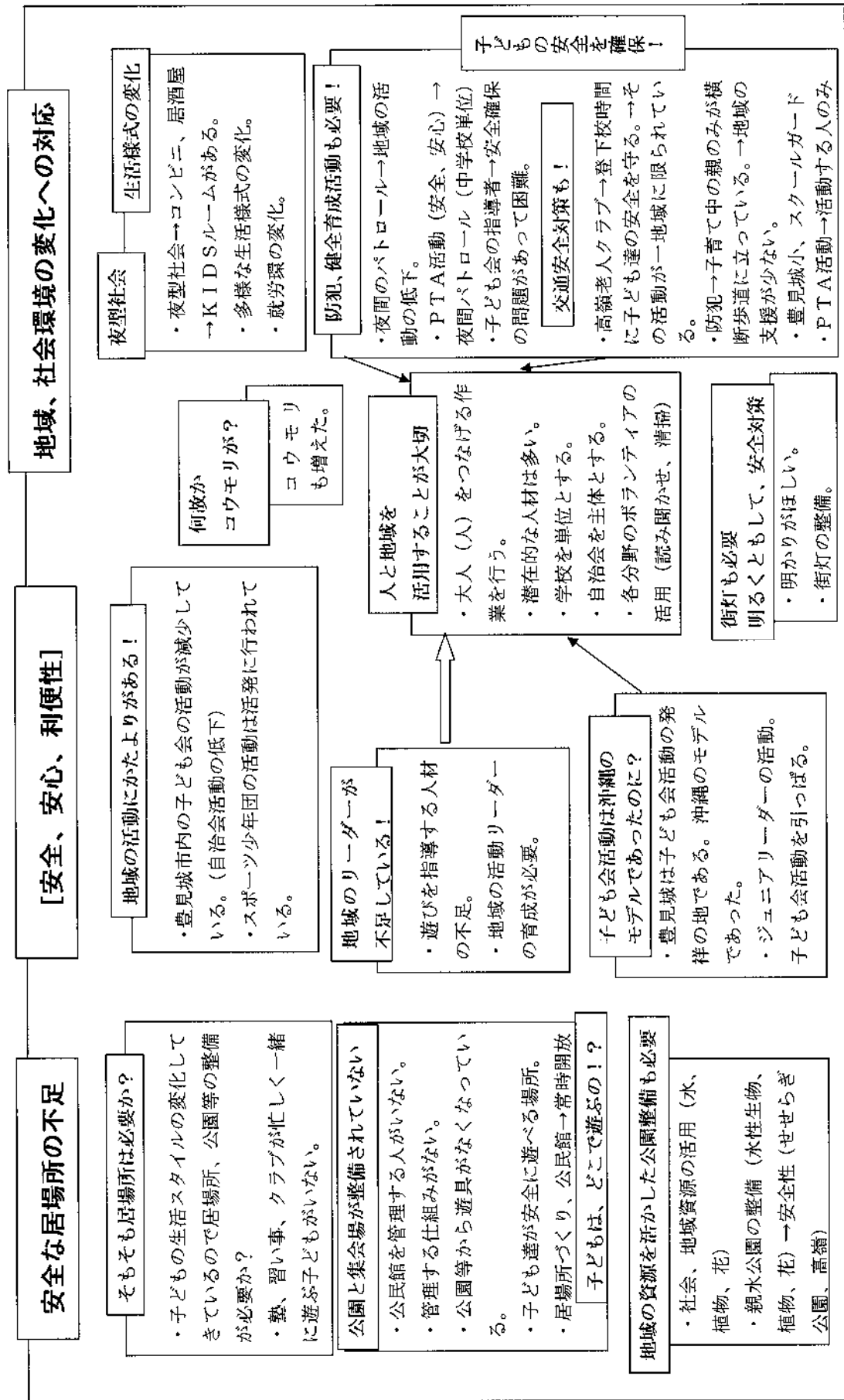
- ・講話（健康の話など）
- 例) お医者さんが話をしてくれる。

地域は？

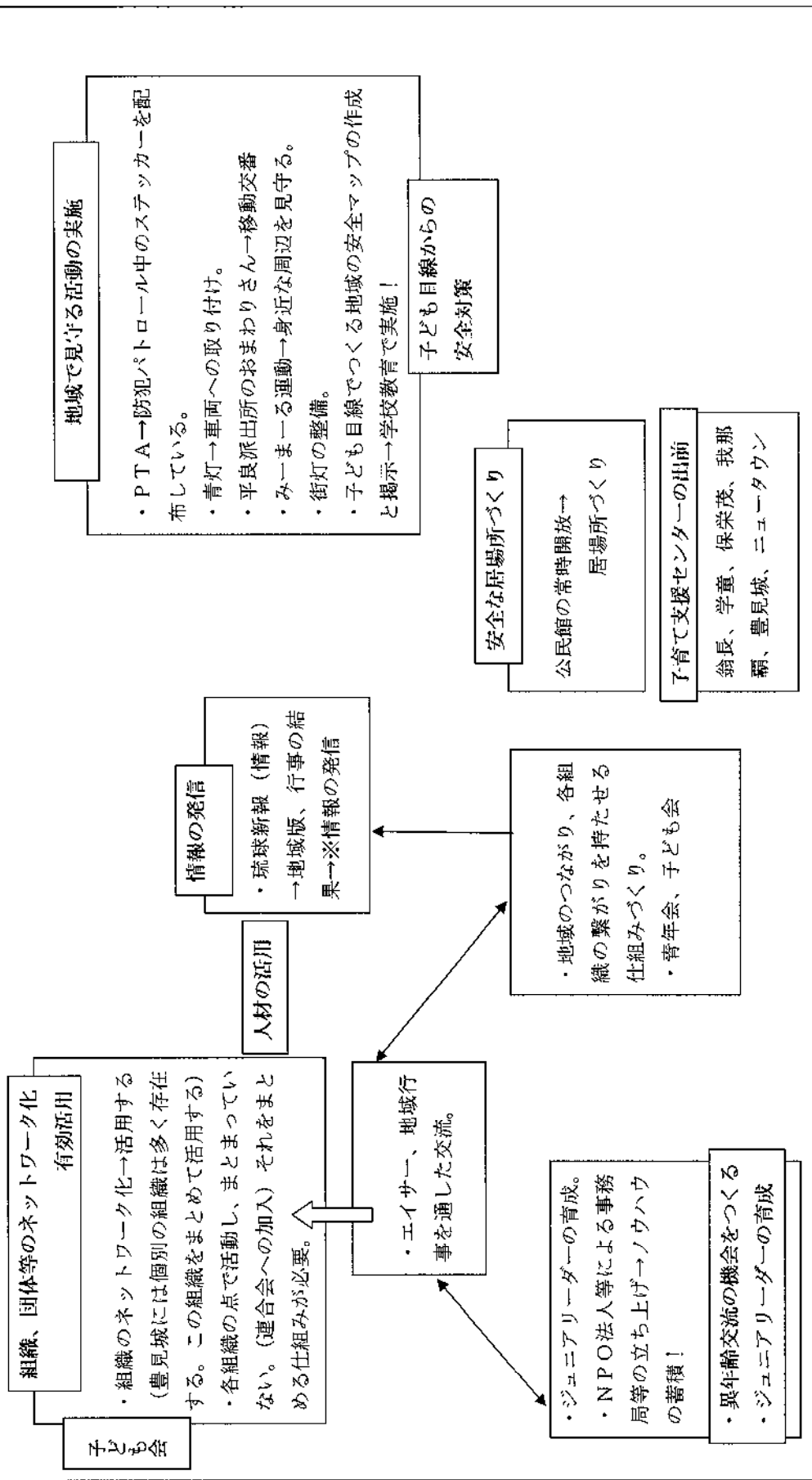
- ・イベントを増やす→市民が参加する。
- ・班長が声をかける。
- ・公民館を無料開放に（地域外からも受け入れる）
- ・公民館を自由に出入りできるようにしてほしい。（指定管理してはどうか？）
- ・エイサーなど伝統芸能を継承するイベント。
- ・親子で参加できるイベント（定期的に）
- ・障がいのある子の存在を知り、受け入れる。

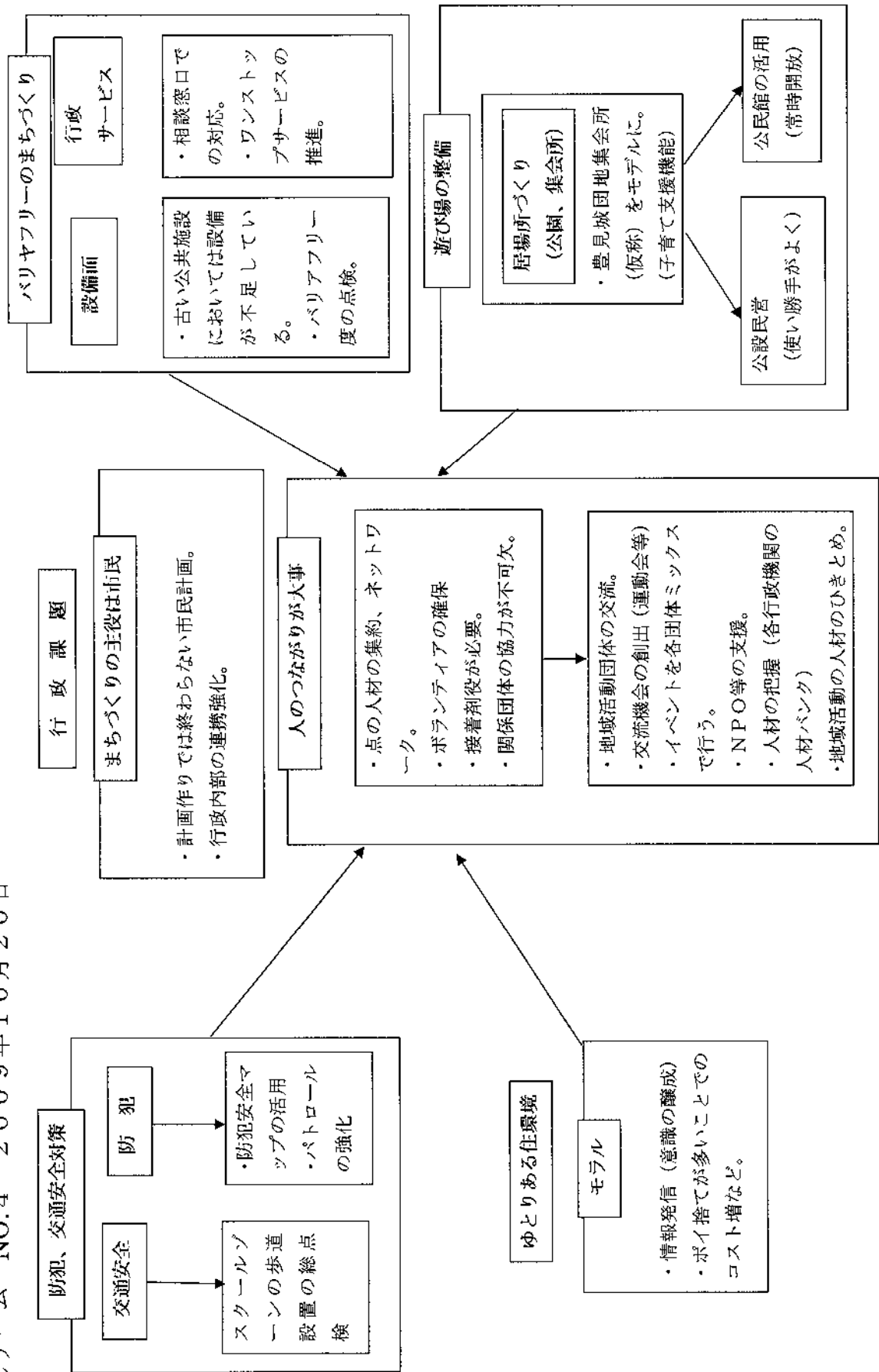
行政・社協

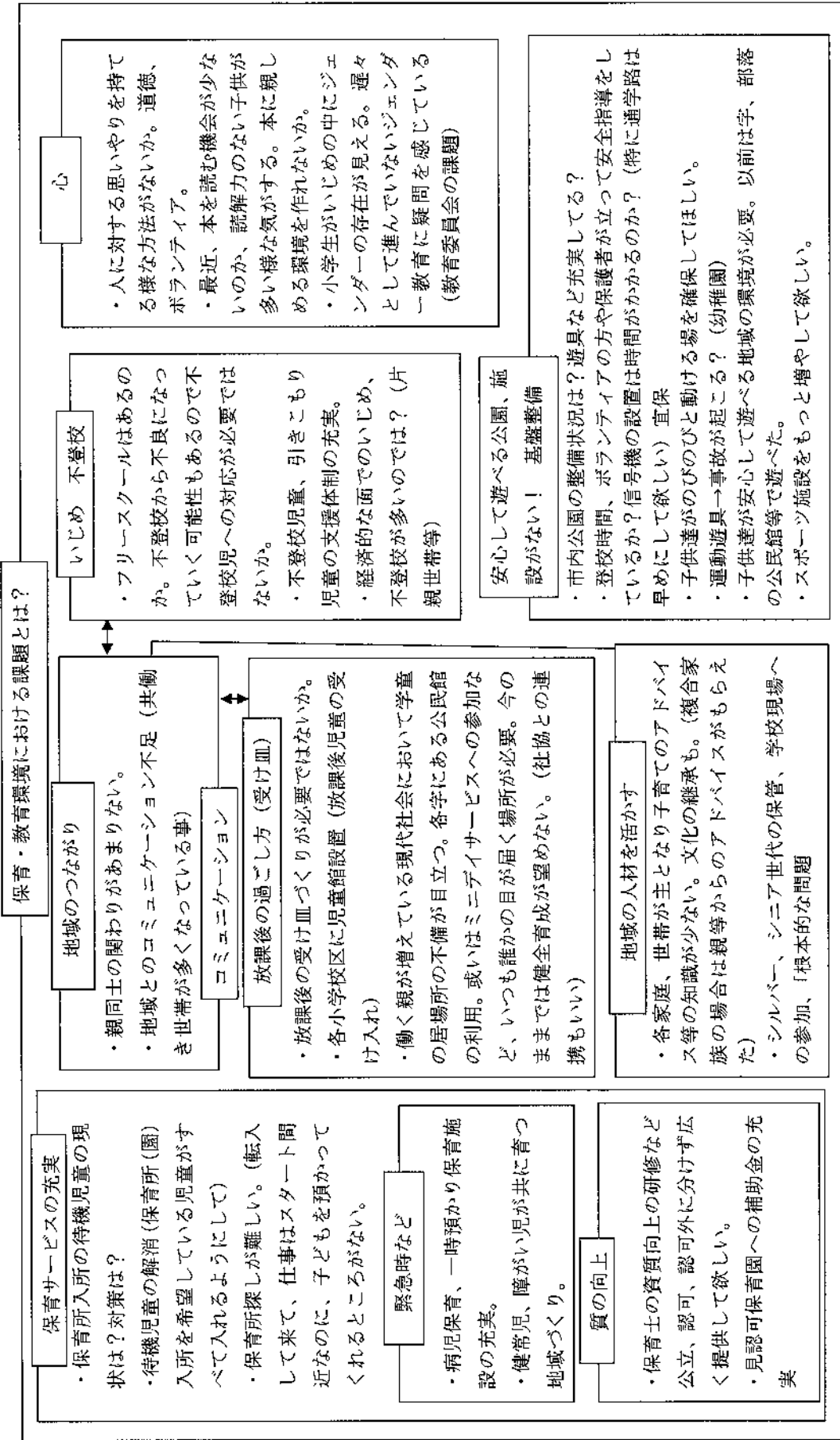
- ・人材と地域をつなげるパイプ役。
- ・広報、効果的な宣伝。
- ・行政は情報が集まる場所。

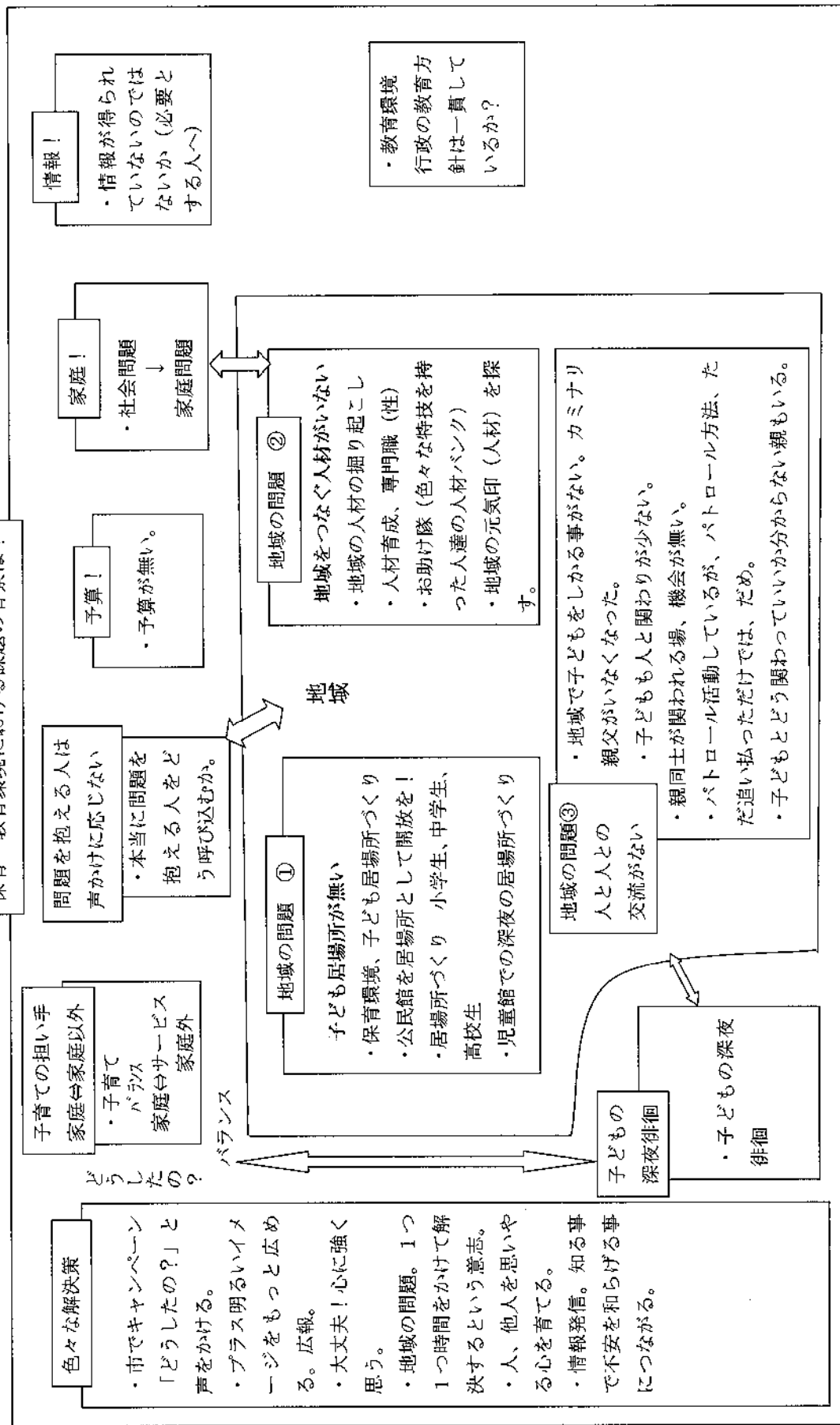


豊見城市 安全、安心のまち（どのようなことに取り組みむべきか）









Dグループ NO.3

そもそも理想とする子どもの居場所とは？

子ども居場所づくり

- ・学校の運動場、体育館、公民館等々。
- ・体育館、曜日、時間帯、指導員の配置など利用のルールを決める。
- ・指導員を配置→教育実習生を活用。
- ・ボランティアばかりに頼ってはダメ。

- ・部活、ジュニアリーダー、サークル活動、青年会など、それぞれに合わせた集まりやすい居場所。
- ・今ある施設等と連携した居場所づくり。老健施設。

・ニーズとハードが整っていたら、あとは誰がやるのか？

- ・子ども関係の予算はある。
- ・予算（お金）、実は使える補助金は探せばあるよ！

全小学校で子どもが安心して過ごせる子ども教室

- ・放課後、子ども教室。
- ・上田、とみしろ、放課後子ども教室。
- ・学童クラブと放課後子ども教室の共存が問題。
- ・活動が継続的に続くための仕組みづくりが大事！
- ・通学路での見守り活動。
- ・活動の励みになる。新たに支える人も増えるのでは。（良い波及効果）
- ・施設とニーズはある。それを運営できる組織、体制を作るのが大事。
- ・NPO法人等を上手活用する。

地域で子どもを守る（部落単位で）

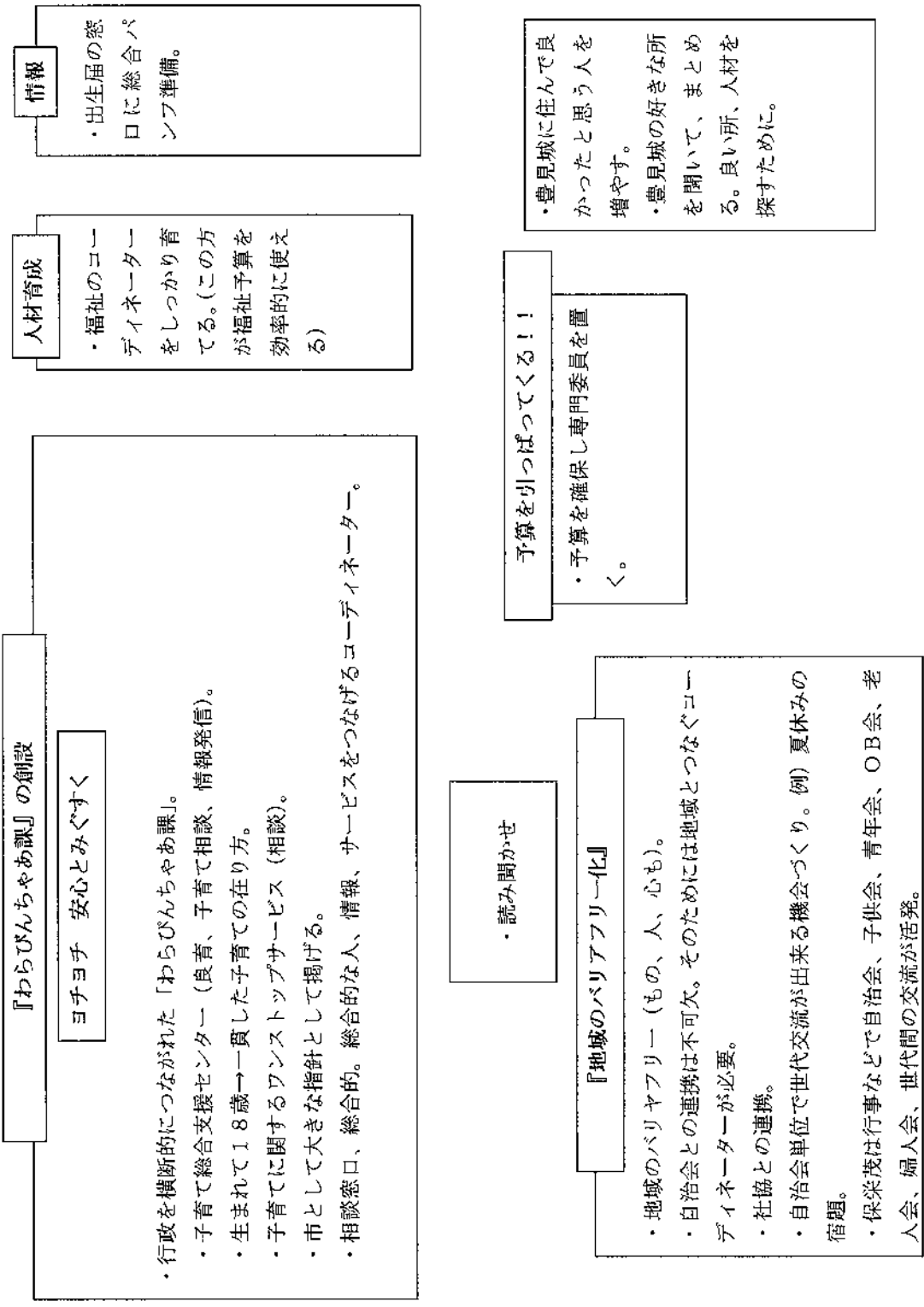
- ・自治会に加入しているかどうかを問わずに利用出来る事が大事。
- ・地域で子育てをすすめるのであれば。
- ・地域の公民館を開放（48自治会）
- ・区長会で市長が公民館開放について訴える。そのためには市として地域の子育て拠点として重要施策として位置づける。

安全な地域づくりに向けて

- ・公園周辺の住民、店舗と協力して防犯対策。
- ・まずは不審者対策。
- ・地域単位で保健、教育、福祉など関係者を巻き込んで考える。
- ・朝、夕の学校周辺の見守り活動。（がんばっている人を称える→広報で紹介）
- ・朝、登校時の声かけ「いってらっしゃい」「気をつけてね」

広報活動、大切。

Dグループ NO.4、5



6 豊見城市次世代育成支援行動計画（後期）策定委員名簿

	課名	氏名	
委員長		副市長	赤嶺 要善
副委員長		福祉部長	知念 義貞
企画部	企画調整課	課長	喜屋武 正彦
	商工観光課	課長	長嶺 直
市民健康部	市民課	課長	大城 秀信
	健康推進課	課長	比嘉 盛仁
	生活環境課	課長	赤嶺 豊
福祉部	社会福祉課	課長	長嶺 清光
	障がい・長寿課	課長	比嘉 弘勇
経済建設部	都市計画課	課長	大城 盛宜
学校教育部	学校教育課	課長	平田 真一
	学校施設課	課長	照屋 堅二
生涯学習部	生涯学習振興課	課長	桃原 典之

事務局

福祉部	児童家庭課	課長	高良 麗子
		係長	嘉数 久美子

7 計画策定の経緯

ニーズ調査	専門部会(ワークショップ)	策定委員会
平成21年1月上旬 ・ 調査項目調整開始		
平成21年2月10日(火) ・ 校長会にて協力依頼		
平成21年3月2日(月)～ 平成21年3月13日(金) ・ 調査票配布 各小中学校 各幼稚園 公立保育所 法人保育園 わくわく児童館 真嘉部コミュニティセンター その他		
平成21年4月上旬 ・ 集計作業	平成21年4月上旬 ・ ワークショップ参加者募集	
	1回～3回 平成21年7月 ・ 公立保育士による ワークショップ	
	1回 平成21年8月14日(金) ・ 市民ワークショップ	1回 平成21年9月29日(火) ・ 後期計画策定に当たっての考え方 ・ 後期計画の策定ポイント ・ 市の現況(人口構造)
	2回 平成21年8月28日(金) ・ 市民ワークショップ	
	3回 平成21年9月9日(水) ・ 市民ワークショップ	
	4回 平成21年9月25日(金) ・ 市民ワークショップ	
	5回 平成21年10月7日(水) ・ 市民ワークショップ	
	6回 平成21年10月20日(火) ・ 市民ワークショップ	
	延べ参加人数 83 名	2回 平成21年11月27日(金) ・ 後期計画の基本的な考え方 ・ 公立保育所の方向性
		3回 平成22年3月1日(月) ・ 後期計画(素案)検討
		4回 平成22年3月15日(月) ・ 後期計画(案)検討



豊見城市次世代育成支援行動計画（後期計画）

～わらびんちゃあ夢風船～

【平成 22 年 3 月】

発 行：豊見城市

〒901-0292

豊見城市字翁長 854 番地の 1

編 集：豊見城市 市民福祉部 児童家庭課

TEL 098-850-0143

FAX 098-856-7046